

An aerial photograph of a city, likely Yamanashi, with Mount Fuji in the background. The city is densely packed with buildings and roads, and a river is visible on the left side. The mountain is covered in snow and has a small plume of smoke or steam rising from its peak. The sky is clear and blue.

裾野市の防災対応等

令和6年4月24日
裾野市危機管理課

説 明 項 目

No	項 目
1	説明の趣旨
2	裾野市の地域の特徴
3	防災体制
4	地震災害対応
5	風水害対応
6	火山災害対応
7	その他 共助（コミュニティ）の必要性（地区防災計画策定推奨）、防災アプリ等の普及、令和5年度防災業務予定
8	質疑応答

説 明 の 趣 旨

裾野市自主防災会長の皆さん方に対し、
裾野市の防災対応に関する概要を説明し、
防災対応上の現状及び特性等について認識
していただくとともに、**防災意識の向上**を
図る。

また、今年度**7月20日（土）**に実施予
定の富士山火山避難図上演習について認識
してもらい、準備を含めた**ご支援・ご協力**
をお願いするもの。

富士山

裾野市の特性（地域の特性）

★ 令和2年6月30日
～7月1日の大雨は、
累加雨量が約440mmで
須山地区が県内1位

★ 令和3年7月1日～
4日の累加雨量は、富
士山側（千福が丘付近）
で800mm超え
1990年代観測記録更新

★ 令和5年5月7日朝
4時台雨量は45mm/1h
須山地区が、県内1位
6月2日～3日の間
1日累加雨量約620mm
須山地区が、県内上位

最高気温（8月）

平坦部 : 30.8℃ □ **2.1℃差**
須山地区 : 28.7℃

最低気温

平坦部 : -2.2℃ □ **6.8℃差**
須山地区 : -9.0℃

年間平均気温

平坦部 : **14～15℃**

降水量 : 年間平均で約2,000mm
多いのは**6月～9月迄の4カ月間**

宝永火口

富士高原帯

富士山麓帯

愛鷹山地帯

佐野川

黄瀬川低地帯

箱根山麓帯

箱根山

新東名

東名

黄瀬川

大場川

南寄りの風

- 人口 : 約4.9万人 (**16位**/35市町村)
- 面積 : 138.12km² (**17位**/35市町村)
- 標高 : 78.5m～2,169m **標高差大**
- ◆ 「健康文化都市」宣言 (H7.12)
- ◆ 「平和都市」宣言 (H27.12)
- ◆ 「財政非常事態宣言」 (R3.2)
- ◆ トヨタ未来都市ウーブンシティ (R3.2)
- ※ 一昨年11月上旬「建築本体工事」開始
2024～2025年に一部開所予定

7/5(月)08:00現在の状況

令和3年7月1日～5日の降雨状況

雨量	2021/07/05 08:00 単位(mm) 上段:時間雨量 / 下段:累加雨量											雨量が違う!
観測局名	21:00	22:00	23:00	00:00	01:00	02:00	03:00	04:00	05:00	06:00	07:00	08:00
市ノ瀬	0 593	0 593	0 593	1 594	1 595	1 596	0 596	1 597	1 598	1 599	0 599	0 599
須山	1 13	0 13	0 13	0 13	1 14	0 14	1 15	0 15	0 15	0 15	0 15	0 15
愛鷹(国) 千福が丘付近	0 833	0 833	1 834	0 834	2 836	2 838	0 838	0 838	0 838	1 839	1 840	1 841
須山(国)	0 0	--- ---	--- 0	1 1	0 1	0 1	0 1	0 1	0 1	0 1	0 1	0 1

7/3 2000時点の751mmを追加

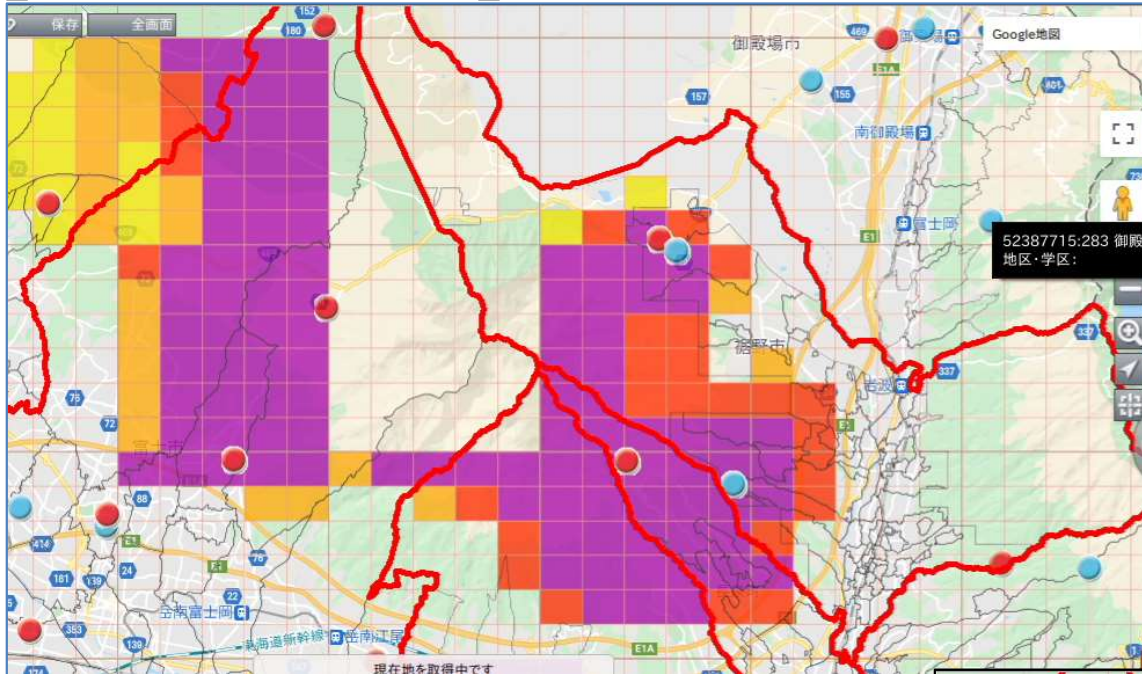
水位	2021/07/05 08:00 単位(cm) 凡例を表示											
観測局名	21:00	22:00	23:00	00:00	01:00	02:00	03:00	04:00	05:00	06:00	07:00	08:00
花園橋 黄瀬川	88	86	85	83	83	83	82	80	80	79	77	79
千福 佐野川	172	171	170	170	170	170	170	168	168	166	165	166
石段(国) 黄瀬川	125	125	124	123	122	123	122	121	120	119	118	120
長尾橋(危) 泉川	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(花園橋)
水防団待機水位 :2.8m
氾濫注意水位 :3.2m
氾濫危険水位 :3.4m

(千福(寿)橋)
水防団待機水位 :2.75m
氾濫注意水位 :4.2m
氾濫危険水位 :

令和3年7月3日（土）未明の裾野市の土砂災害の危険性

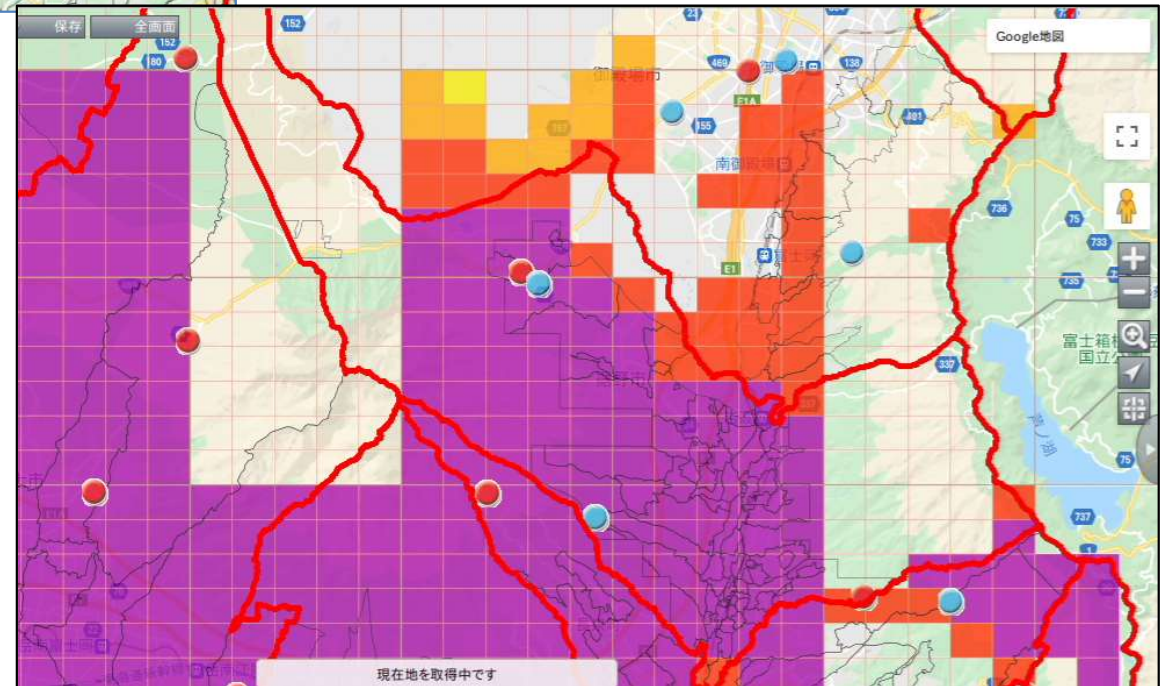
【00:10頃の状態】



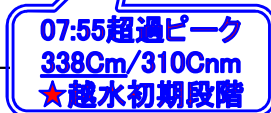
【土砂災害危険度情報】

警戒レベル2相当：黄色→注意
 警戒レベル3相当：橙色→警戒
 警戒レベル4相当：紫色→非常に危険
 ★濃紫色→極めて危険

【02:30の状態】



★ 市内の居住地が殆ど
レベル4(紫色)となった。



令和3年7月3日（土）08:00頃
の黄瀬川（花藺橋）付近の状況



※ 昨年6月2日23時頃も同一の様相
（夜間）



要配慮者利用施設「うぐいす」
からの河川状況

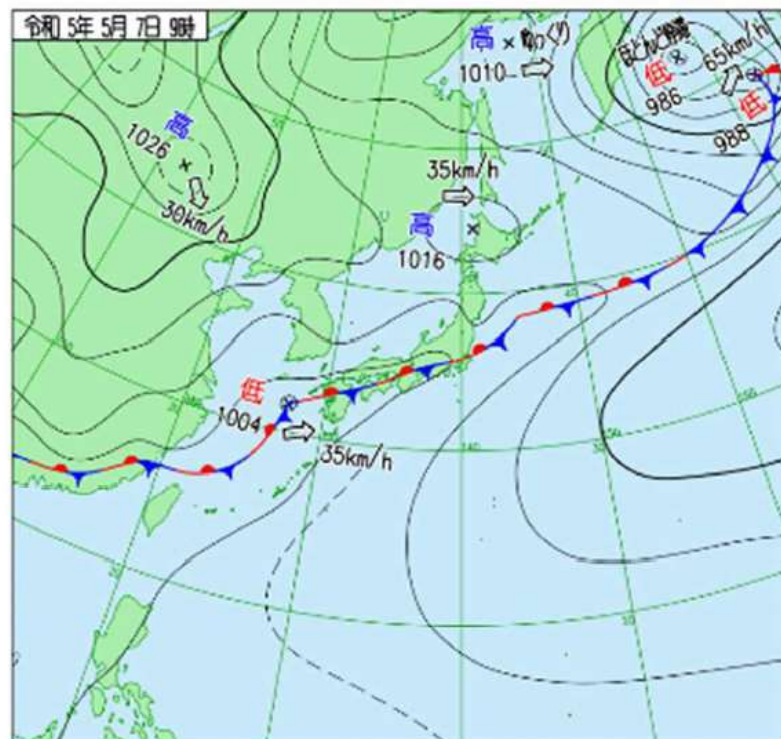


図1 7日09時の地上天気図

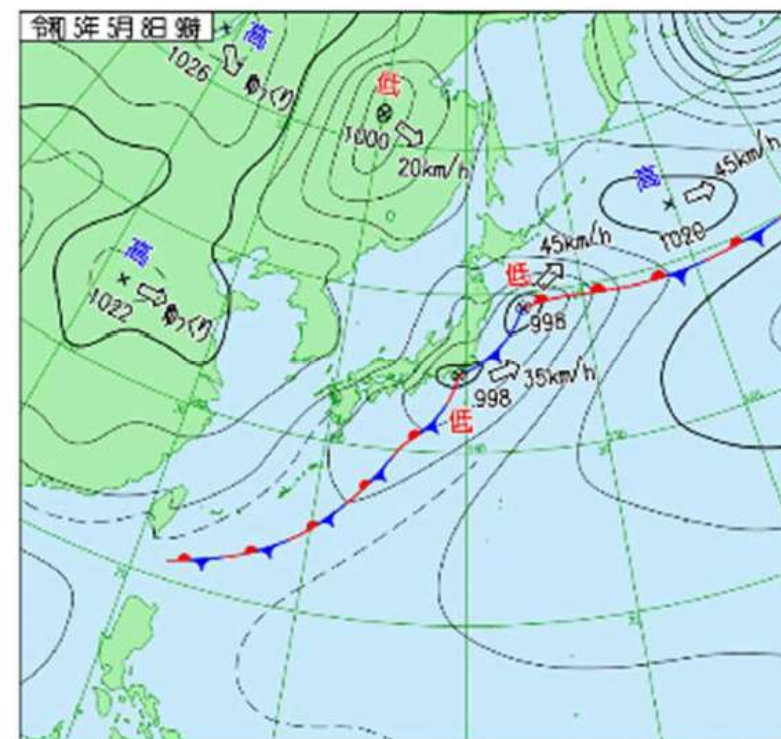


図2 8日09時の地上天気図

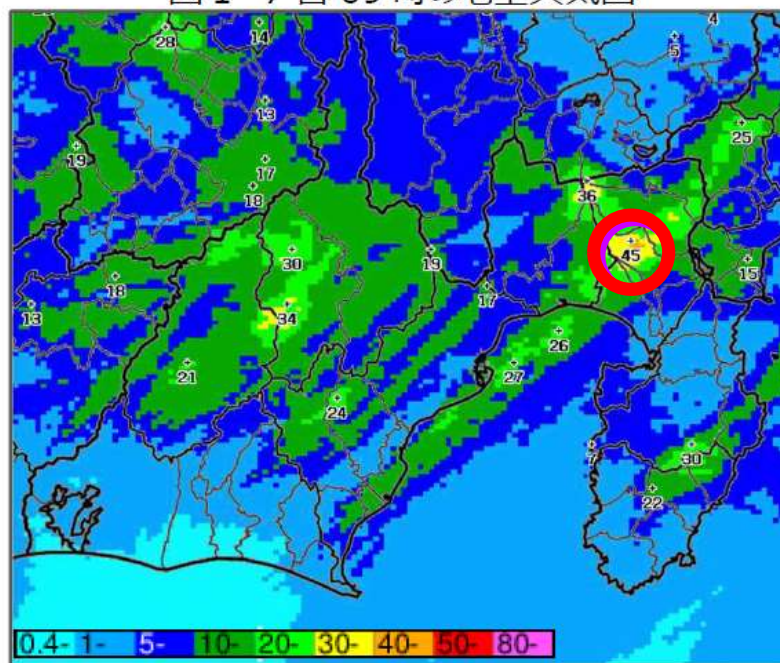


図3 8日04時00分の1時間解析雨量(※1)

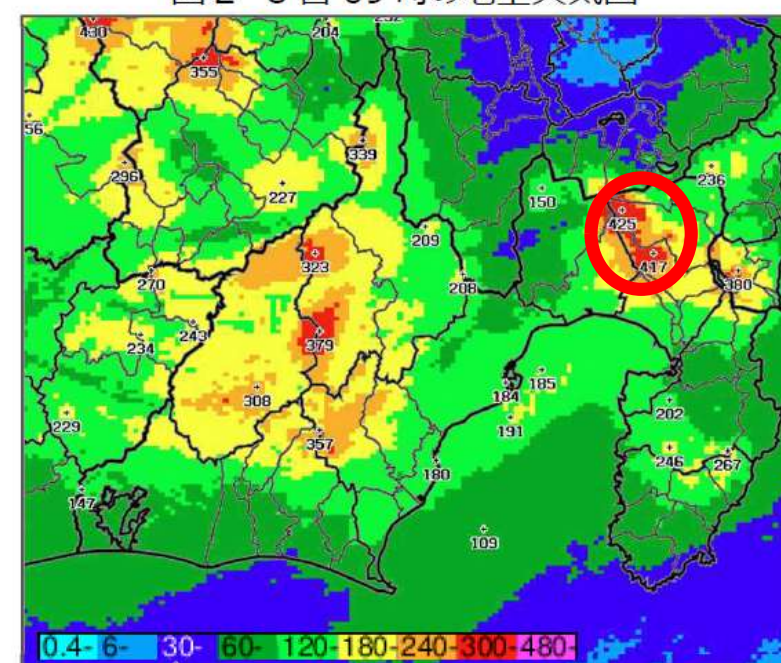


図4 8日13時00分までの48時間積算解析雨量(※)

防 災 体 制

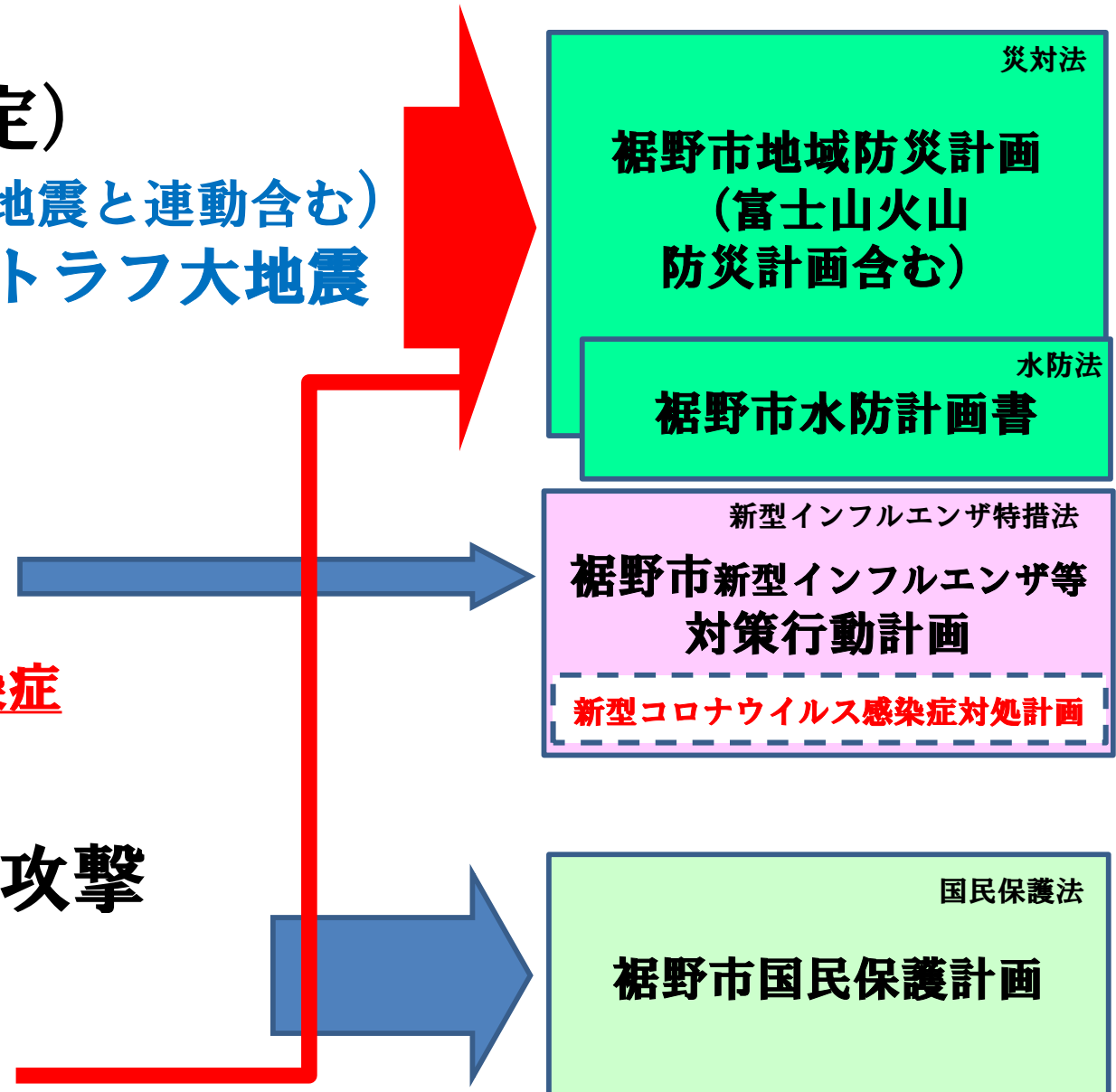
可能性のある災害と市の防災計画等

自然

- 地震（第4次被害想定）
東海地震（東南海・南海地震と連動含む）
元禄型関東震災、南海トラフ大地震
- 富士山の噴火
- 水害、土砂災害
- 鳥インフルエンザ
（新型インフルエンザ）
※ 新型コロナウイルス感染症

人的

- 弾道ミサイル、武力攻撃
- テロ
- 大爆発、大事故



裾野市の防災体制（裾野市災害対策本部）

令和6年4月現在

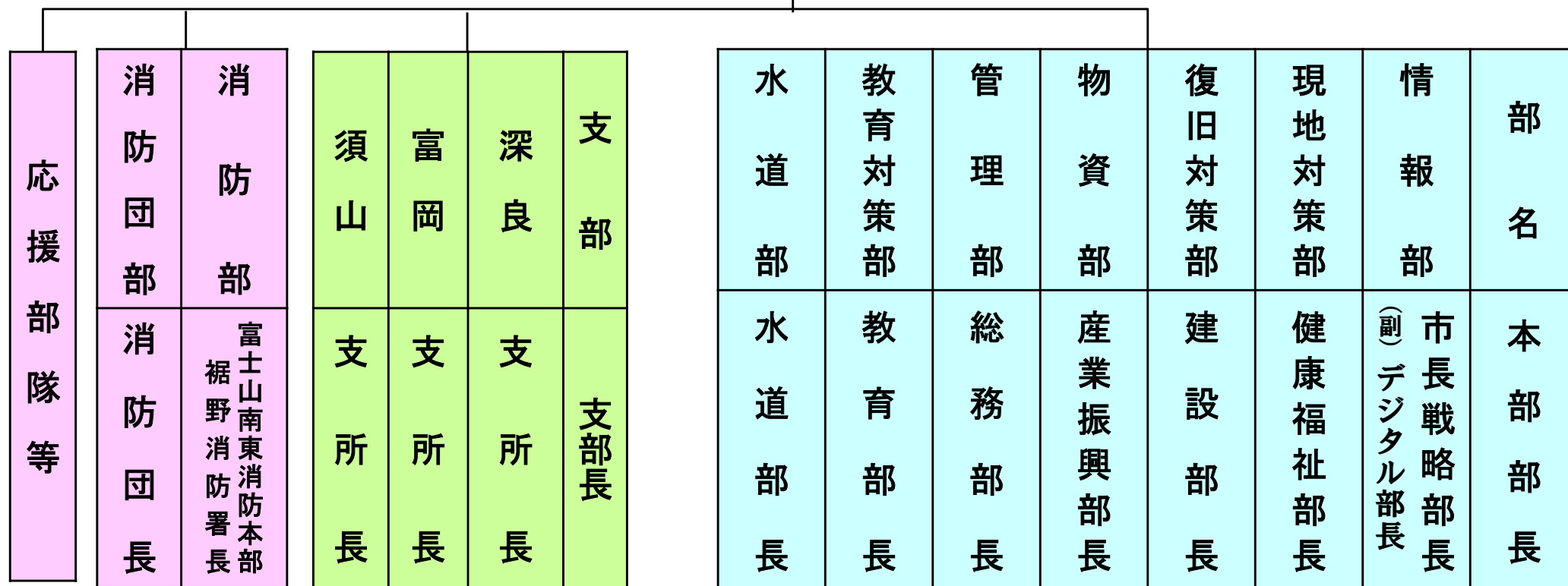
本部長（市長）

副本部長（副市長、教育長）

統制部

危機管理監（環境市民部長）

危機管理調整監、危機管理課長



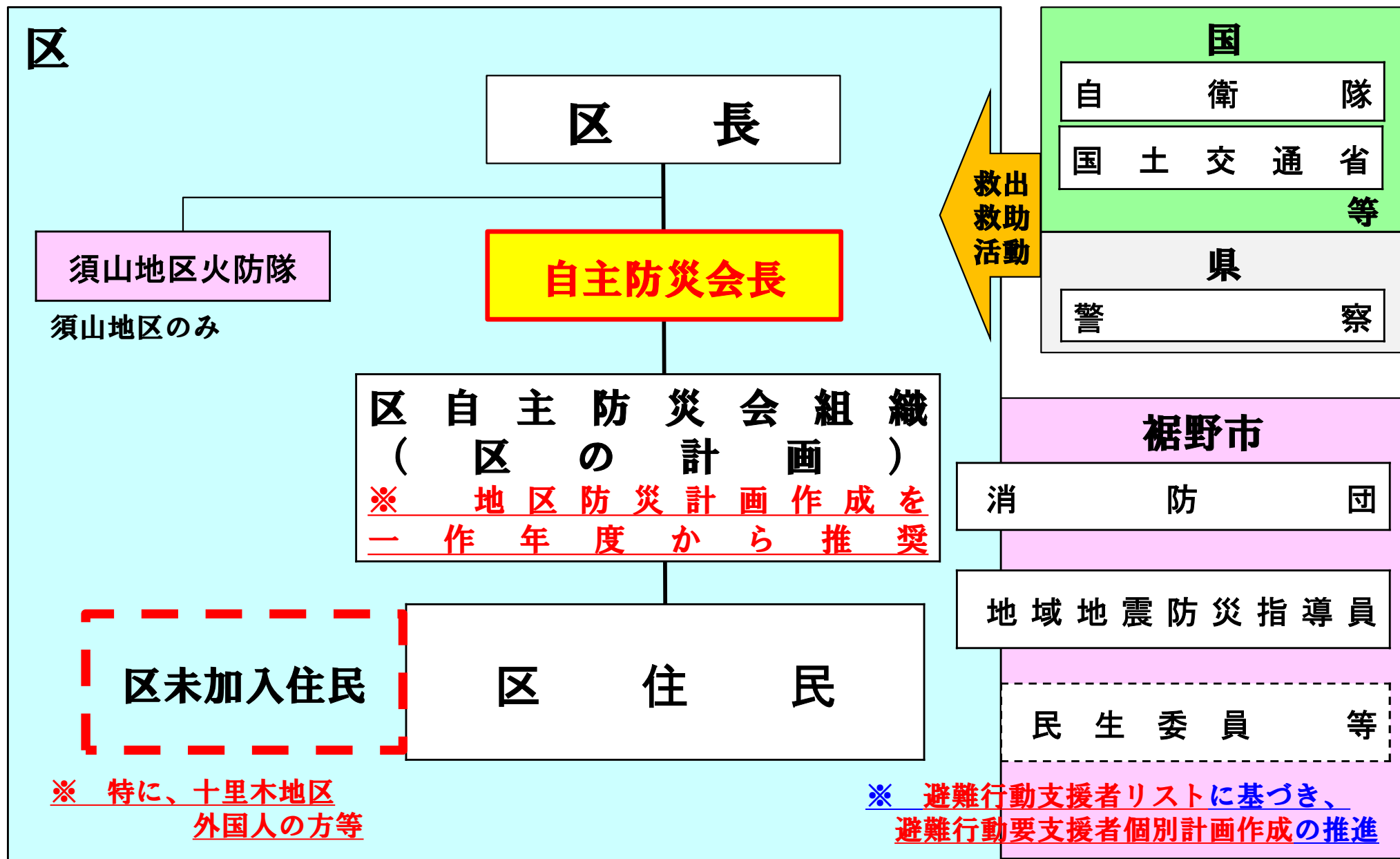
裾野市の防災体制（防災拠点）

令和6年4月現在

災害対策本部、(支部)	1(3)ヶ所	市役所(401)、各支所
広域避難地(地震)	11ヶ所	各小学校 等
防災倉庫	26 個	各広域避難地等主体に配置
救護所	4ヶ所	福祉保健会館、裾野高百周年記念会館、 南小校舎、須山研修センター
市指定避難所	27ヶ所	各小学校 等
福祉避難所(2次避難所)※	12ヶ所	市内福祉事業所施設7ヵ所、各保育園等
医療救護対策調整所	1ヶ所	福祉保健会館
緊急物資集積所	1ヶ所	市民文化センター(1F)
自衛隊の活動拠点	1ヶ所	運動公園
緊急消防援助隊の活動拠点	1ヶ所	総合グラウンド
警察災害派遣隊の活動拠点	1ヶ所	市民文化センター(2F、3F)
応急給水拠点(配水場)	7(16)ヶ所	石脇配水場等
防災ヘリポート	3ヶ所	運動公園、消防庁舎屋上、不二聖心女子学院 ※ HP候補地は、逐次追加(千福が丘小グラウンド)
一時滞在者&リフレッシュセンター	1ヶ所	ヘルシーパーク裾野
(ボランティアセンター)	(1ヶ所)	福祉保健会館

※ 福祉避難所は、発災後3日目頃の開設を予定しています。その他、緊急輸送路、避難路等

裾野市の防災体制（各区）



裾野市の災害対応（基準）

災害発生

小グループ毎
の安否確認

小グループ毎
の安否確認

小グループ毎
の安否確認

の安否確認

の安否確認

の安否確認

〇〇区災害対策本部

区 長
自主防災会長

各役員等による活動

- 情報班
- 避難・誘導班
- 救出・救助班
- 消火班
- 災害時要配慮者班
- ・
- ・
- ・
- ・

（地震以外の災害
では、直接連絡）

市災害対策本部

992-1111（代表）

（危機管理課：995-1817）

デジタル防災行政無線
（半固定、車載、携帯）

（地震の場合）

自主防会長、区担当者等
が広域避難地へ赴き、
広域避難地班長に報告
「情報連絡票」

広域避難地（11カ所）

広域避難地班長以下数名の職員
が、派遣され各地区の情報を市
災対本部に報告する

必要に応じ避難所の開設、救
護所の開設等を行う・

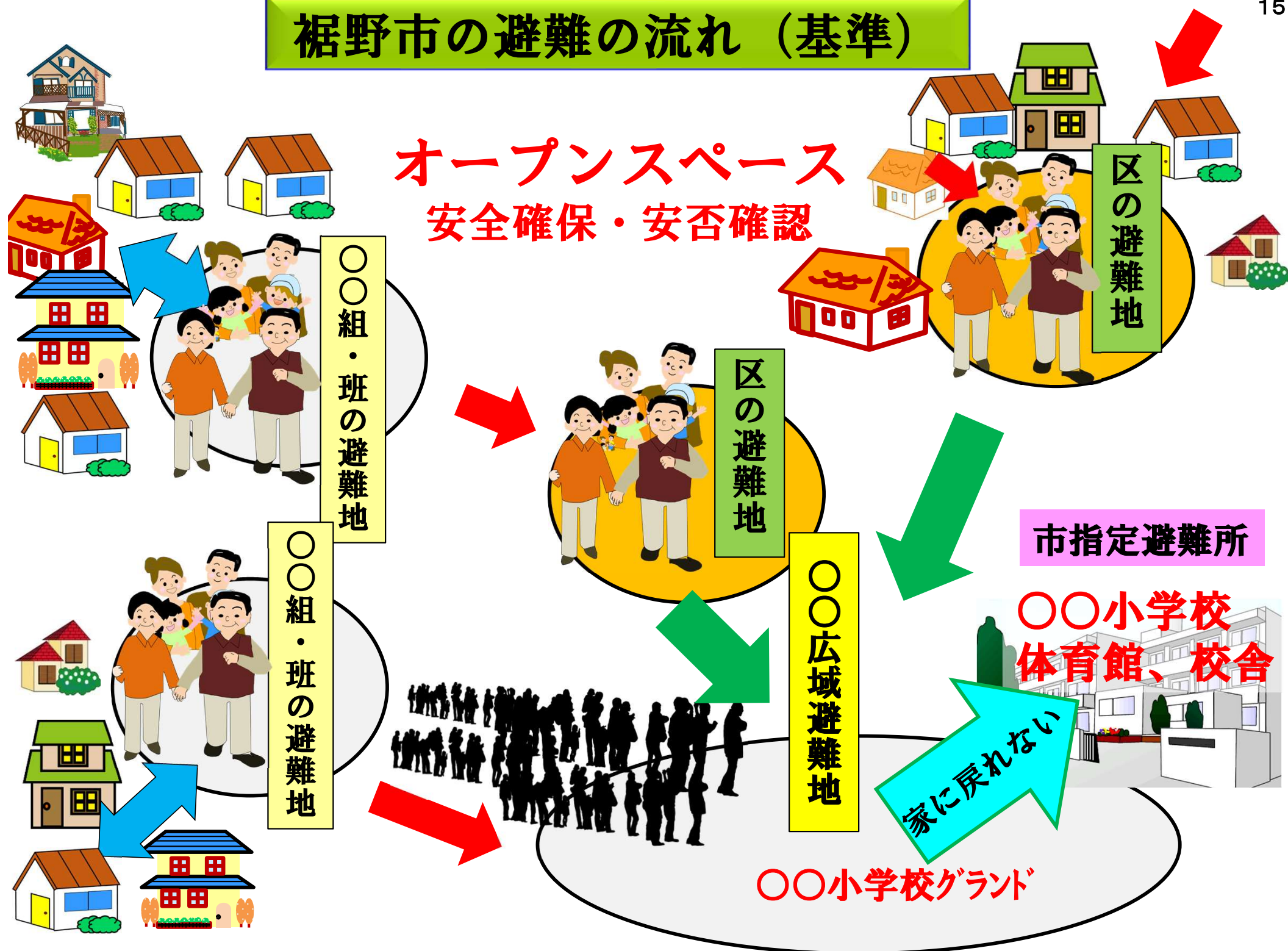
（小グループとは、
各区で決めている
班・組・最寄等の
ことです。）

★ 必要により、情報収集のため職員派遣（巡回形式、常駐しない）

【デジタル防災行政無線の設置場所】 ※ 半固定型

市民体育館、東保育園、裾野駅、岩波駅、今里本村集会所、十里木集会所、富沢公民館、
本村下公民館、鈴原区集会所、峰下公民館、久根公民館、鹿島神社、原区集会所、
石脇公民館、千福公民館、下条公民館、

裾野市の避難の流れ（基準）



避難所開設の基本的事項

受入れ対象者	■ 自宅等が全壊・半壊・焼失・浸水等により被害を受け、居住の場を失った者（<u>その恐れがある者を含む。</u>） ■ 自宅に帰宅することが困難な者（帰宅困難者） ■ その他災害により生活の自立が困難な者	
開設基準	地震	■ 市内で震度5弱以上の地震が発生したとき （<u>被害状況による。</u>） ■ 避難勧告・避難指示等を発令したとき ■ 自主的な避難者があったとき（自主避難） ■ 南海トラフ地震（臨時）情報が発令されたとき（<u>昨年5月から運用</u>）
	風水害	■ 避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告・避難指示等を発令したとき
開設期間	■ 開設後、今後の災害発生危険性、住宅の応急修理の状況、応急仮設住宅の建設状況等を勘案し、<u>開設期間を設定</u> ■ 基本は7日間、それ以降は、<u>避難者の状況により延長</u>	
設置者	（指定避難所） 裾野市	
運営主体	<u>自主防災会</u> ・ <u>施設管理者</u> ・ <u>市職員</u> ・ <u>避難者</u> による 避難所運営本部	

避難所運営（開設）の主な役割分担

自主防災会 (組織)	■ 避難所の<u>立ち上げを主導</u> ■ 避難者や地域住民への<u>情報伝達</u> ■ 居住組（在宅避難者）の把握及び支援 ■ 地域全体の防火・救助・防犯活動
施設管理者	■ 広域避難地班職員と連携した施設・設備の被害状況や安全性の<u>確認</u> ■ 学校や公共施設の管理 ■ 避難所の運営支援（主に施設・備品） ■ 避難所運営組織から要請のあった事案について調整
広域避難地班 職員（市職員）	■ （施設管理者と協力した）避難所の開設・閉鎖 ■ 避難所の立ち上げ支援 ■ 避難所の運営支援 ■ 市災害対策本部への報告・要請 ■ 避難所の避難者及び居住組（在宅避難者）の取纏めと情報提供

地震災害対応

第4次地震被害想定の方

※第5次被害想定
今年度改正予定

19

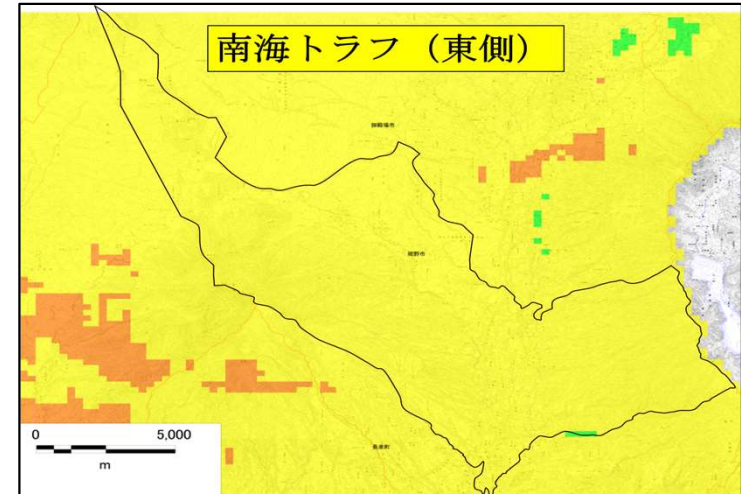
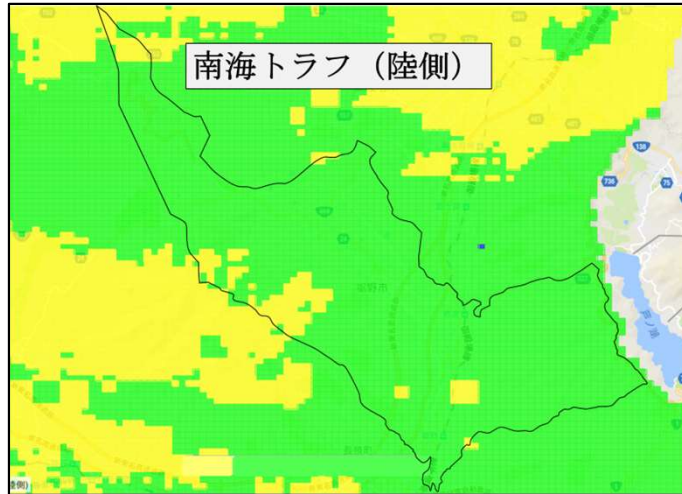
区 分	内 容			
	発生頻度	被害の程度	駿河・南海トラフ沿い	相模トラフ沿い
レベル1 の地震	比較的 高い	発生すれば 大きな被害 を及ぼす	東海地震 東海・東南海地震 東海・東南海・南海地震	大正型関東地震 再来周期200年～400年
※1 レベル2 の地震	極めて 低い	発生すれば 甚大な被害 を及ぼす	南海トラフ巨大地震 <u>過去数千年間に発生した したことを示す記録なし</u>	元禄型関東地震 再来周期：2,300年
今後30年以内の発生確率 (レベルの区分無し)			M8～9クラス 70～80%	M8クラス(7.9～8.6) ※2 ほぼ0%～6%
				M7程度(6.7～7.3) 70%程度
10年以内			30%程度	ほぼ0%～2%
				30%程度

※1 レベル2の地震：あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波 ⇐ 想定外防止

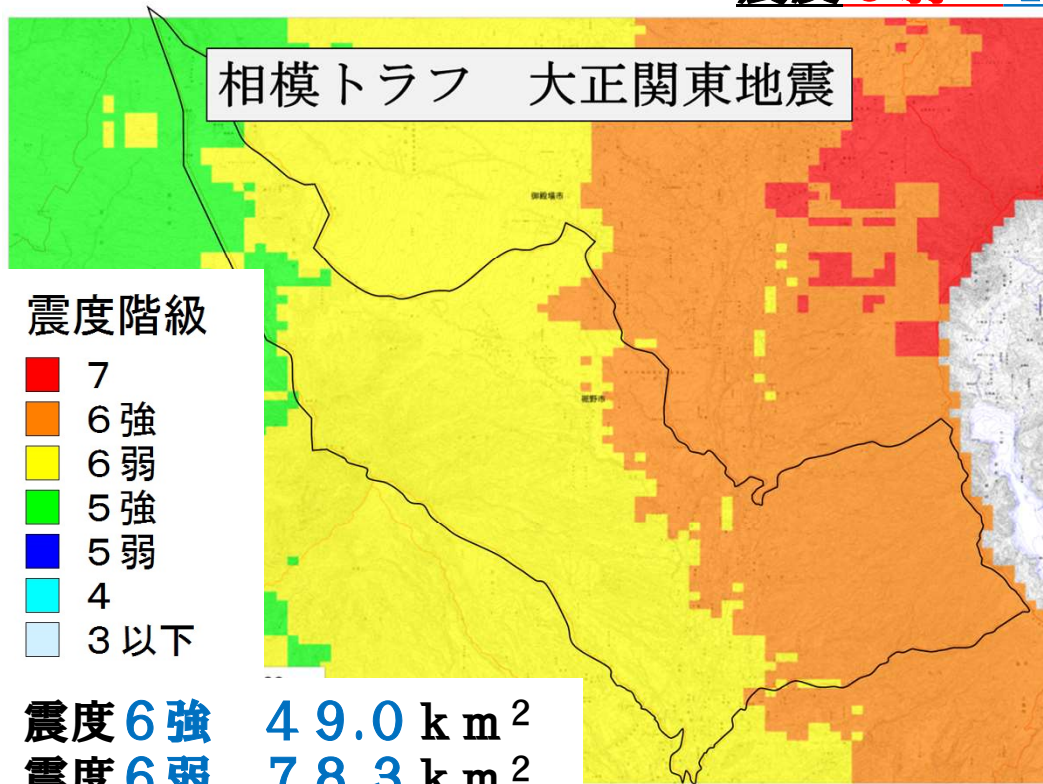
※2 従来、大正型・元禄型関東地震と評価していたものを一括評価したもの（震源域の多様性により単純に2つの型に分けられないとしてM8クラスの地震として一括評価）

地震：裾野市の震度分布図

市面積 135.6km² 20



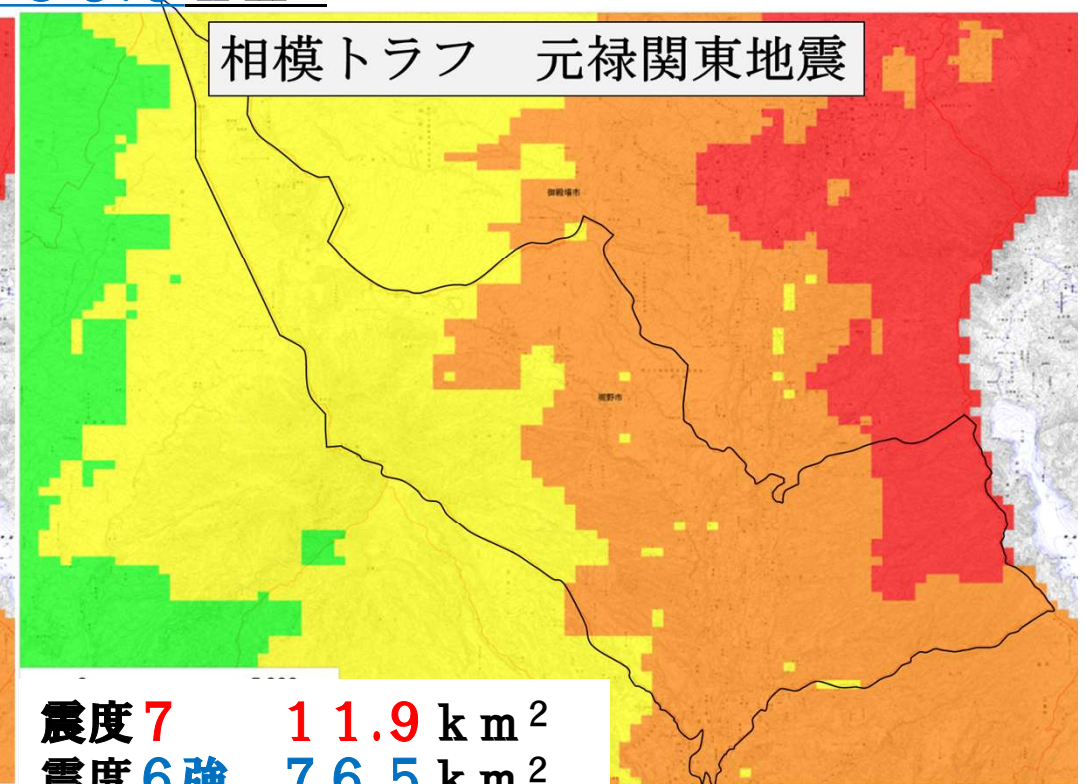
震度6弱 1 3 5.5 km²



震度階級

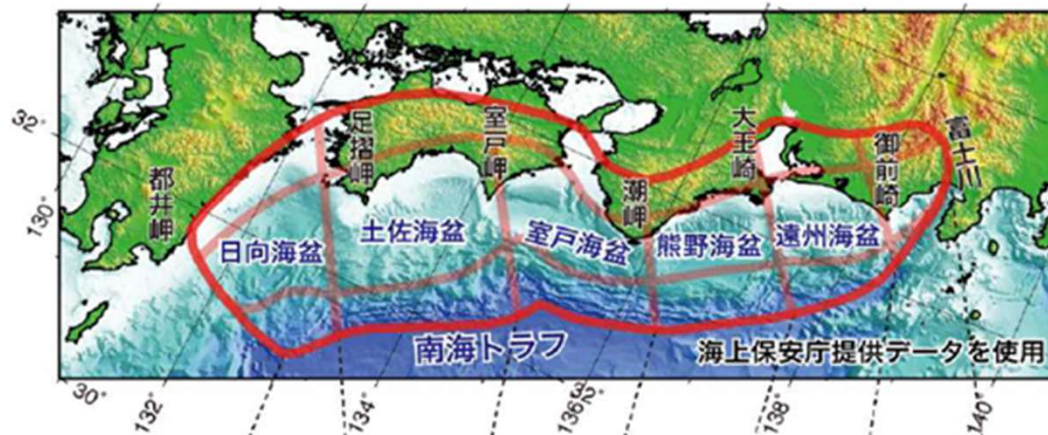
- 7
- 6 強
- 6 弱
- 5 強
- 5 弱
- 4
- 3 以下

震度6強 4 9.0 km²
 震度6弱 7 8.3 km²
 震度5強 8.2 km²

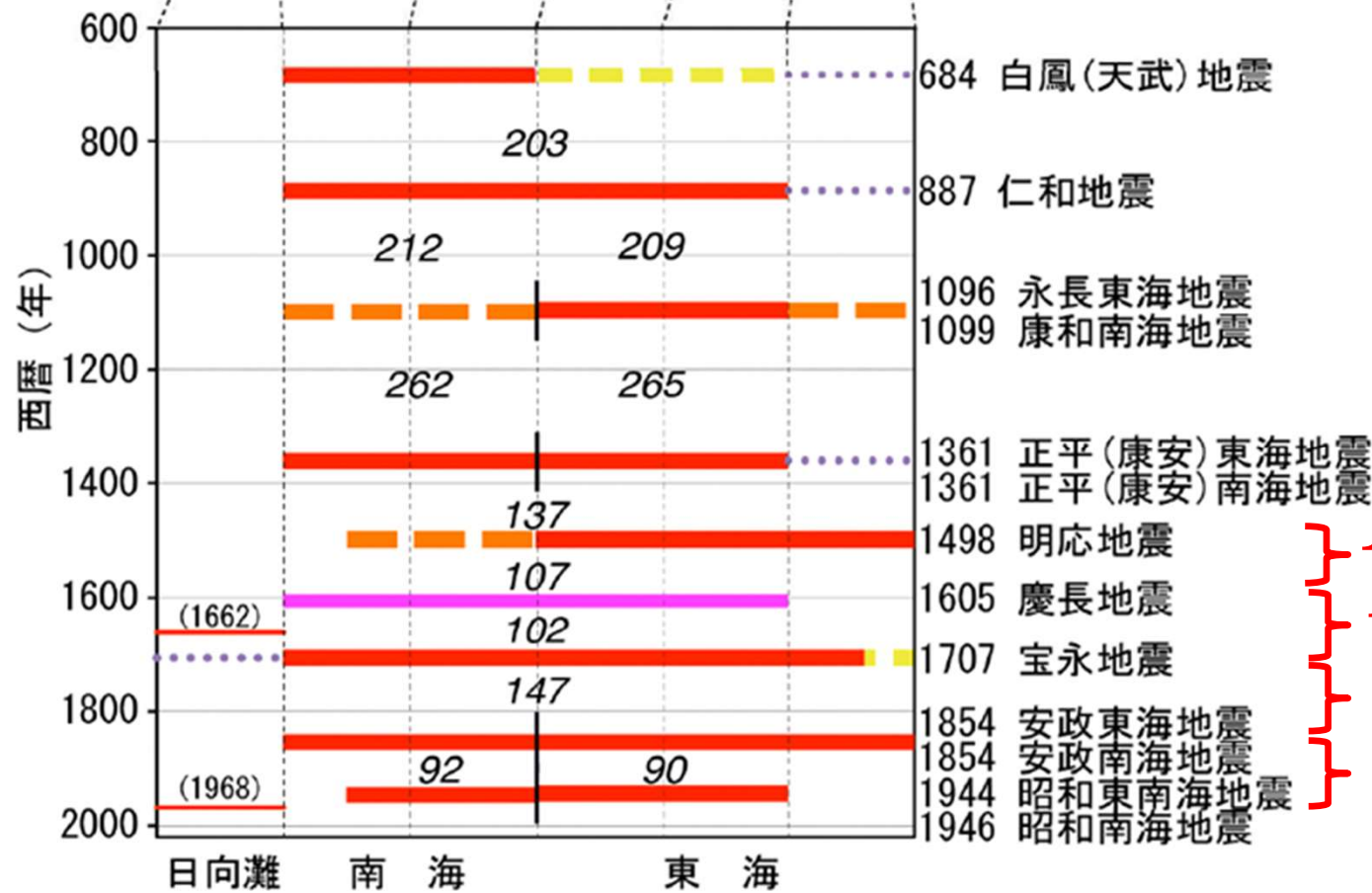


震度7 1 1.9 km²
 震度6強 7 6.5 km²
 震度6弱 4 7.2 km²

南海トラフ地震（発生間隔）



◎ 100～200年間隔で繰り返し
大地震が発生



107年
102年
147年
90年 88.3年(平均値)

★ 2034.3年

広域避難地（11カ所）と避難所（27カ所）

広域避難地

施 設 (各グラウンド・駐車場等)				
西	小	学	校	
南	小	学	校	
裾	野	高	校	
東	小	学	校	
深	良	小	学	校
生涯学習センター				
富岡第一小学校				
富岡第二小学校				
千福が丘小学校				
須	山	小	学	校
向	田	小	学	校

市指定避難所

地区	施 設	地区	施 設
西地区	西小学校	深良地区	深良小学校
	南小学校		生涯学習センター
	裾野高校		深良中学校
	西中学校		深良幼稚園
	西幼稚園		深良地区コミセン
	南児童館	富岡地区	富岡第一小学校
東地区	東小学校		富岡第二小学校
	向田小学校		千福が丘小学校
	東中学校		富岡中学校
	いずみ幼稚園		富岡第一幼稚園
	市民体育館		富岡地区コミセン
	東西公民館	須山地区	須山小学校
			須山中学校
			須山地区コミセン
			須山地区研修センター

 広域避難地内（1番目に避難所を開設する施設）

福祉避難所（12カ所）

富岳一ノ瀬荘

茶畑ヒルズ

あいの郷

みしゅくケアセンターわか葉

富岳ダイヤモンドライフすその

さくらんぼ

みどり作業所

西保育園

東保育園

深良保育園

富岡保育園

須山幼稚園



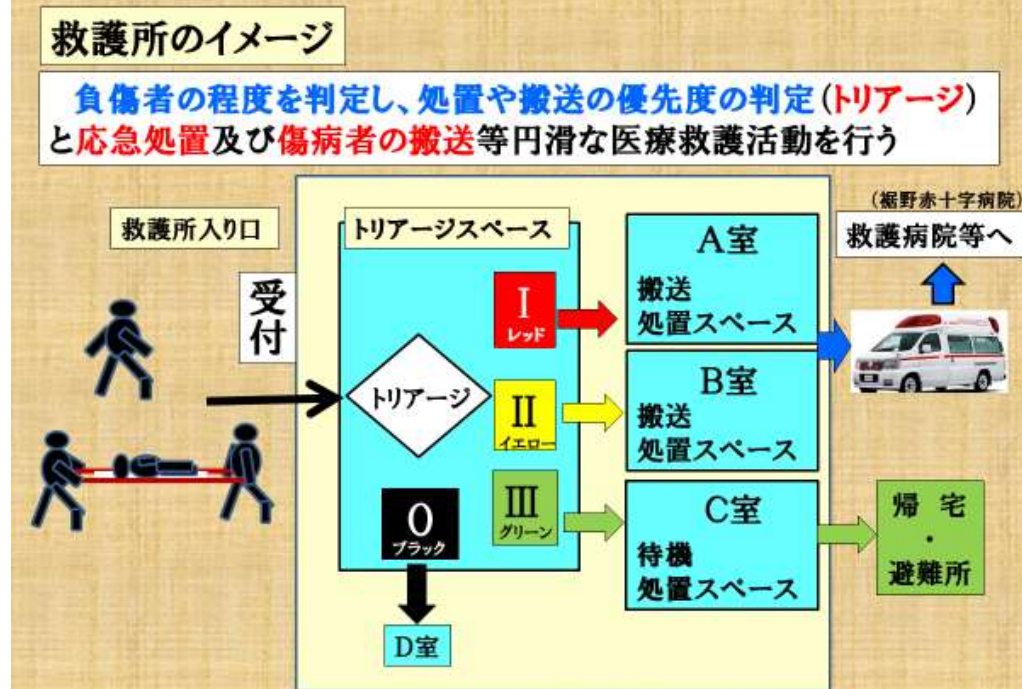
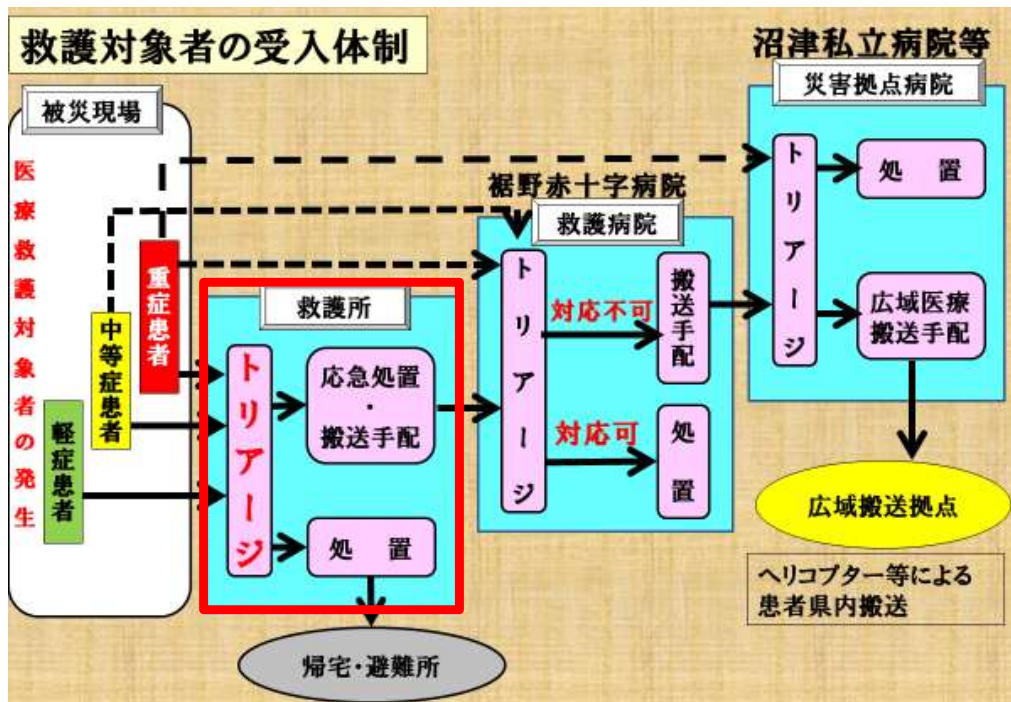
茶畑 ヒルズ



★ 業種毎の色区分

福祉避難所は、**2次避難所**です

救護所及び医療救護対策調整所



区 分	施 設 名 称
救護所 4カ所	南 小 学 校
	裾 野 高 校
	福 祉 保 健 会 館
	須 山 地 区 研 修 セ ン タ ー
医療救護 対策調整所	福 祉 保 健 会 館

風水害対応

気象等の予報及び警報の種類と発表基準

区分	種 類		発 表 基 準		(令和5年6月8日現在 静岡地方気象台)
警 報	暴 風		平 均 風 速	2 0 m/s	
	暴風雪		平 均 風 速	2 0 m/s、雪を伴う	
	大 雨	浸水害	表 面 雨 量 指 数 基 準	2 2	
		土砂災害	土 壌 雨 量 指 数 基 準	1 8 6 (165)	
	大 雪		1 2時間降雪の深さ	平地＝1 0 cm、山地＝2 0 c m	
	洪 水		流 域 雨 量 指 数 基 準	黄瀬川流域＝30.4 (30.3)、佐野川流域＝13.6 (13.6) 用沢川流域＝14.9 (15.1)、泉川流域＝8.9 (10)	
複 合 基 準			黄瀬川流域 (10、27.3 (27.2))		
注 意 報	強 風		平 均 風 速	1 2 m/s	
	風 雪		平 均 風 速	1 2 m/s、雪を伴う	
	大 雨		表 面 雨 量 指 数 基 準	1 1、	または、土 壌 雨 量 指 数 基 準 9 4
	大 雪		1 2時間降雪の深さ	平地＝5 cm、	山地＝1 0 c m
	雷		落雷等により被害が予想される場合		
	なだれ		1. 降雪の深さが3 0 cm以上あった場合 2. 積雪が4 0 cm以上あって最高気温が1 5 ℃以上の場合		
	霜		早霜・晩霜期に最低気温4 ℃以下		
	洪 水		流 域 雨 量 指 数 基 準	黄瀬川流域＝24.3 (24.2)、佐野川流域＝10.8 (10.8) 用沢川流域＝11.9 (12)、泉川流域＝7.1 (8)	
複 合 基 準			黄瀬川流域 (9、19.4) 佐野川流域(5、10.8 (10.8))		
記 録 的 短 時 間 大 雨 情 報				1 時間雨量：1 1 0 m m	

【改定の経緯等】

「水防法の改正（2015年）」

（旧）「50年～100年に1度の大雨の想定」

→（新）「**1,000年に1度の大雨**の想定」
に改めることになった。

【国交省白書2020】

大雨や短時間強雨の発生推移

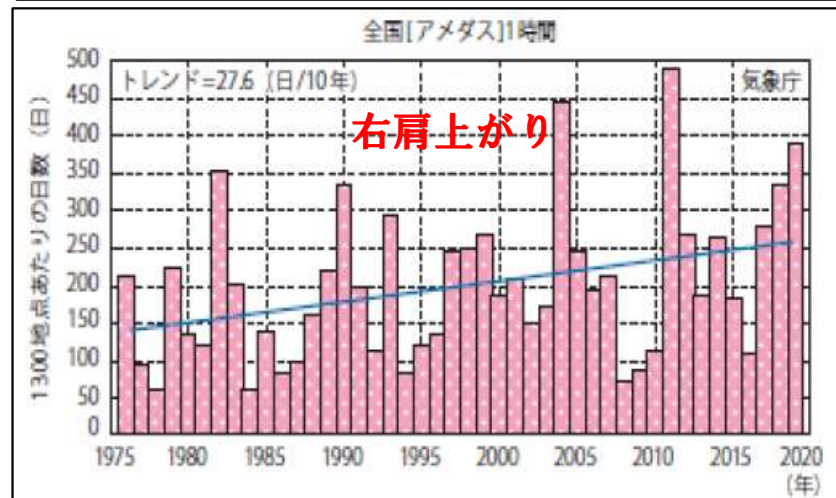
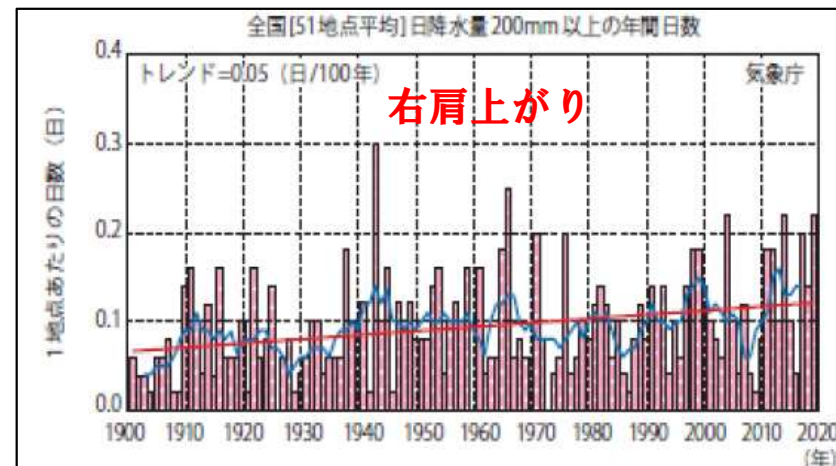
- ① 洪水や土砂災害を引き起こす**大雨や短時間強雨の回数が増加**している。

大雨について、日降水量が200mm以上となる年間の日数を「1901年から1930年」と「1990年から2019年」で比較すると、**直近30年間は約1.7倍の日数**となっており長期的に増加している。

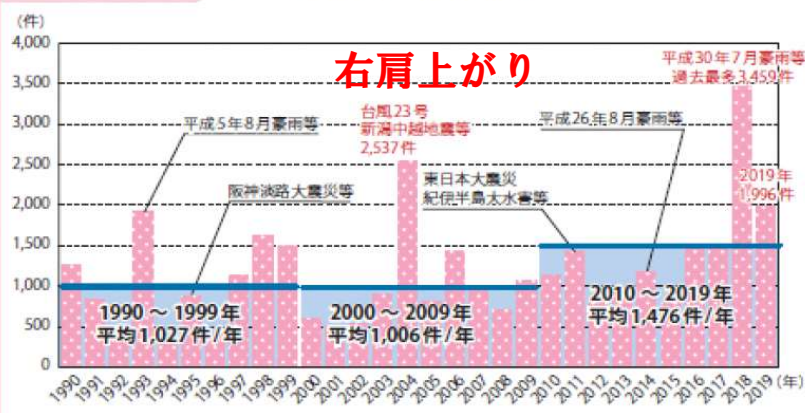
- ② また、短時間強雨について、1時間降水量50mm以上となる年間の回数を「1976年から1985年」と「2010年から2019年」で比較すると、**直近の10年間は約1.4倍の発生回数**となっており、同様に、長期的に増加している。

土砂災害の発生状況

雨の降り方に関連して、**土砂災害の発生回数も年々増加の傾向**にある。2018年（平成30年）は、過去最多の3,459件、2019年も1,996件と非常に多くの土砂災害が発生している。



図表 I-1-1-42 土砂災害の発生件数の推移



ハザードマップの改定

【裾野市防災ハザードマップ（令和2年3月作成：全戸配布）

主に**水害・土砂災害の災害リスク**について、**静岡県が新たに指定・公表**した**洪水浸水想定区域**（平成31年3月29日指定）、**土砂災害警戒区域**（平成30年9月28日指定）を踏まえて作成

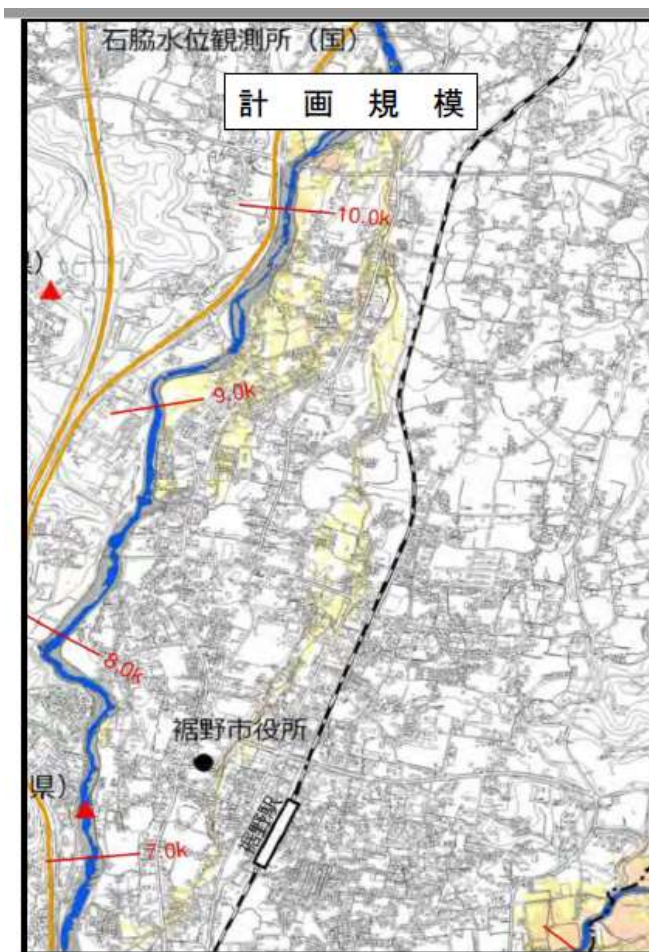
【Before】

【After】

【計画規模】

とは？

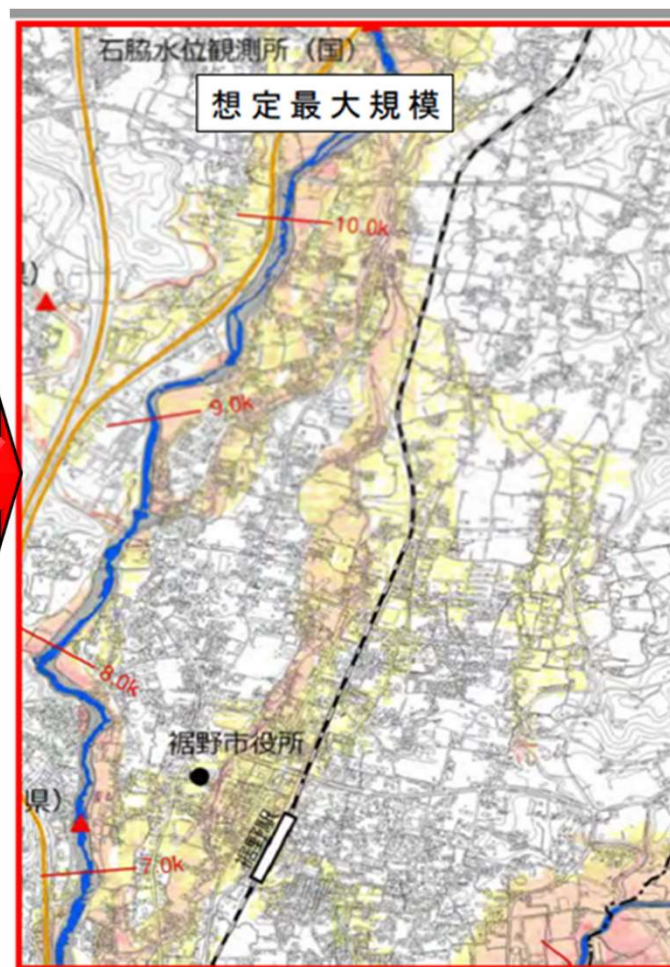
- 河川整備の目標とする降雨の事
- 比較的発生頻度の高い降雨量をもとに設定
- 概ね50年～100年に1回程度、起こり得る大雨
- 前回の洪水ハザードマップにて表示



【想定最大規模】

とは？

- 想定しうる最大規模の降雨の事
- 発生頻度はきわめて低いが、最大降雨量を基に設定
- 概ね、1,000年に1回程度、起こり得る大雨
- 今回の洪水ハザードマップで表示



自宅周辺の危険を知る 【土砂災害警戒区域】

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

市内112箇所

土砂災害が発生した場合、住民の命または身体に危害が生ずる恐れがある地域。県指定。



(C)NPO法人土砂災害防止広報センター



(C)NPO法人土砂災害防止広報センター

がけ崩れ（急傾斜地崩壊）

土石流

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

市内101箇所

土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある地域。県指定。



イエローゾーン



(C)NPO法人土砂災害防止広報センター

地すべり

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

市内111カ所

→ 1カ所追加

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

市内100カ所

→ 1カ所追加

火山災害対応

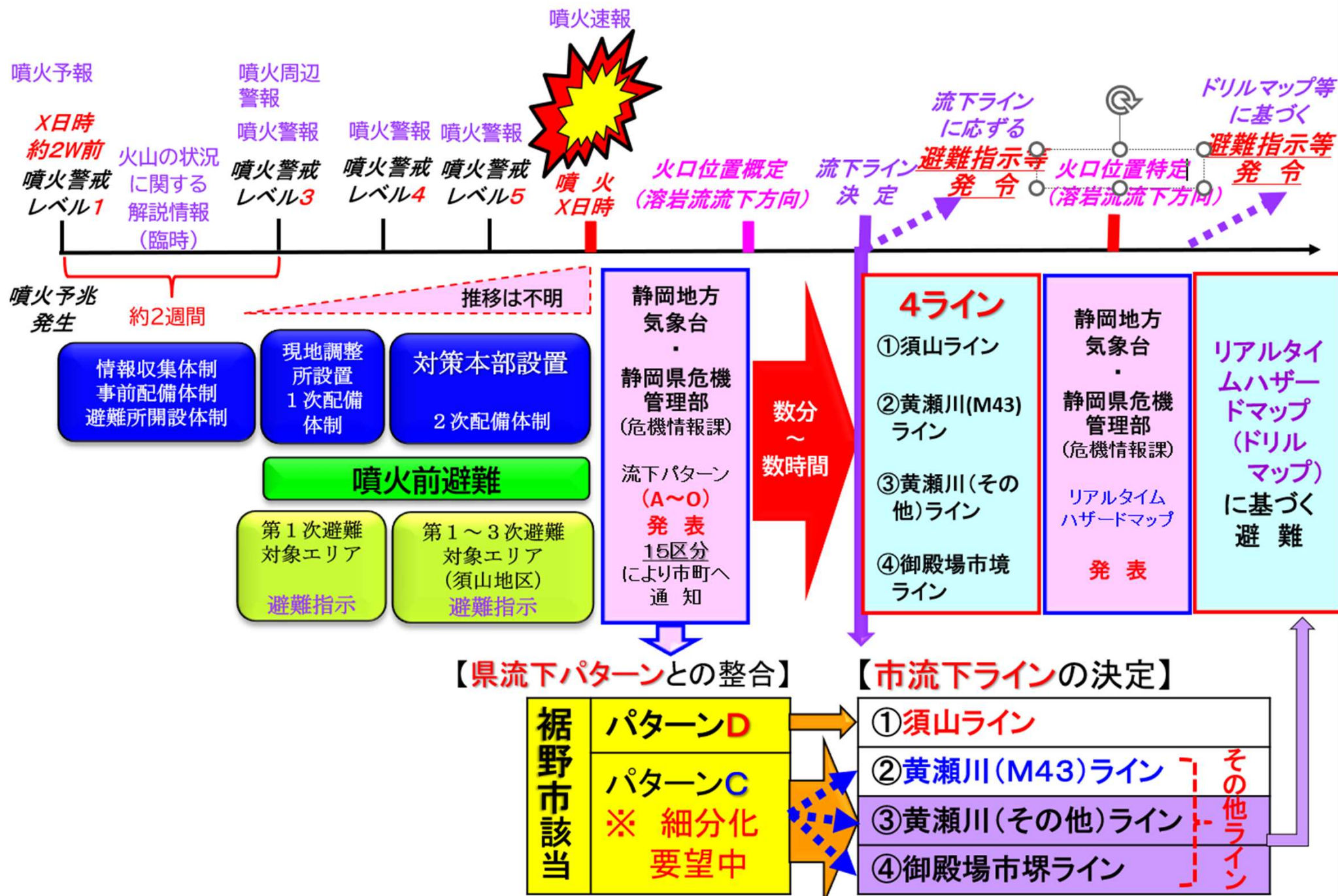
ハザードマップ改定～避難基本計画改定の経過

31

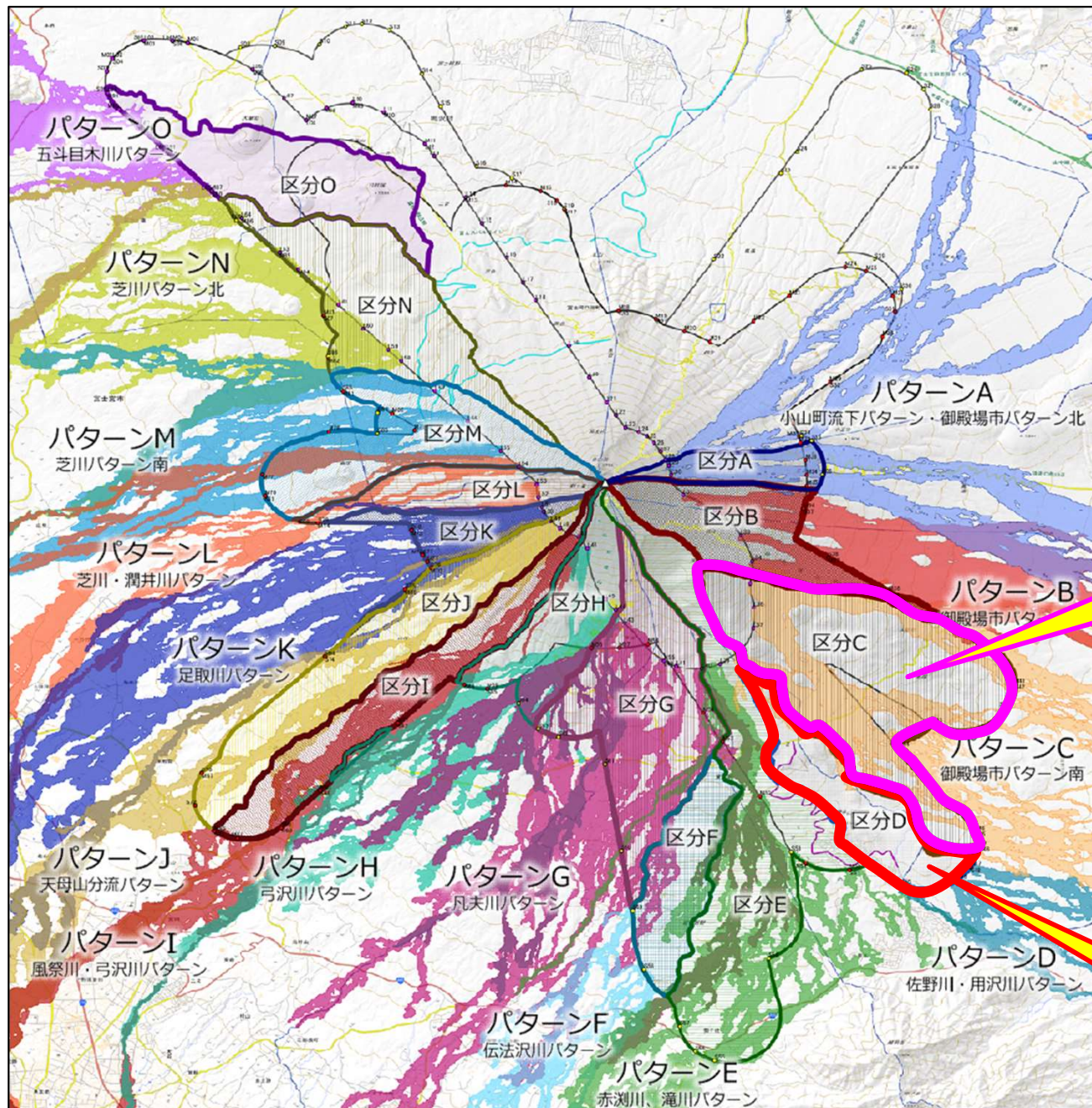
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全 般	3/26 富士山火山防災対策協議会 ハザードマップ改定公表	3/30 中間報告公表	3/29 改定計画決議	計画発効	
静岡県	協議会幹事県		県意見交換・方針会議 県地域防災計画改定	8月計画発簡	広域避難に関する修正深化(具体化)
近隣市町			・富士山ネットワーク会議 ・2市1町防災協議会 ・東部相互防災協定	広域避難検討協定等見直し	
裾野市	協議会1号会員の参加	6/28 住民説明会 10/17 #1 市避難訓練(十里木)	4月 防災マップ配布 8/31 須山中防災教育 自助・共助 須山区長・十里木別荘管理事務所等との調整 11/21 須山小防災教育 11/27 #2 市避難訓練(須山) 市独自シミュレーション 噴火前避難検討 地域防災(広域避難)計画改定	5/2 引き渡し訓練 9～11月 小中防災授業等 12/3 #3 市避難訓練(須山噴火前完成) 避難計画改定 学校安全総合支援事業 噴火後避難検討 噴火前部位のみ改定	計画発効 7月上旬役員訓練会(区長・自主防会長) 住民説明避難訓練

噴火のタイムテーブル

32



県流下パターンとの整合



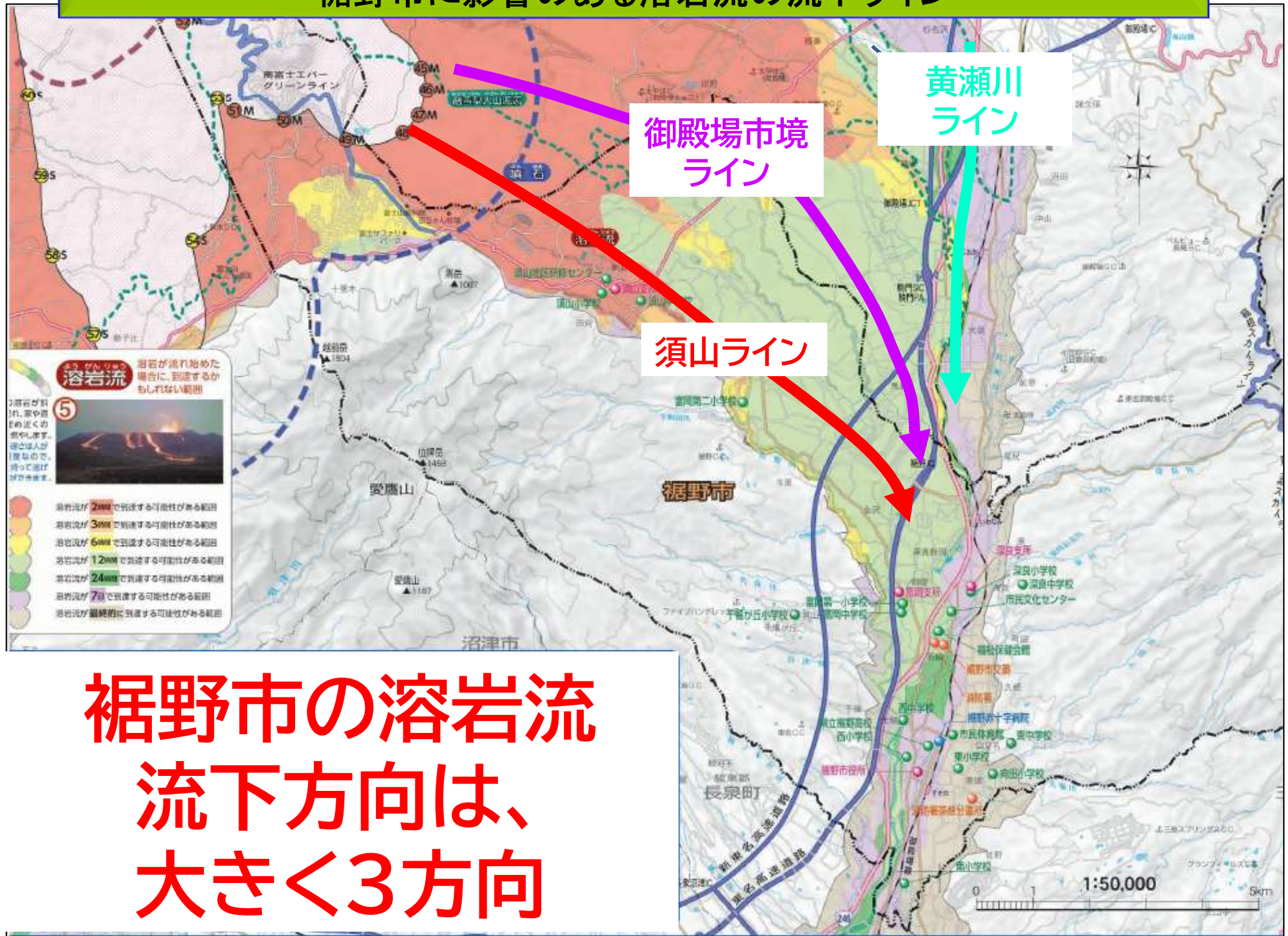
パターンC
の細分化を要望中

(分類要素)

- 分水嶺(水系): 地形学
- 観測体制 : 気象台

パターンDは、
須山ライン

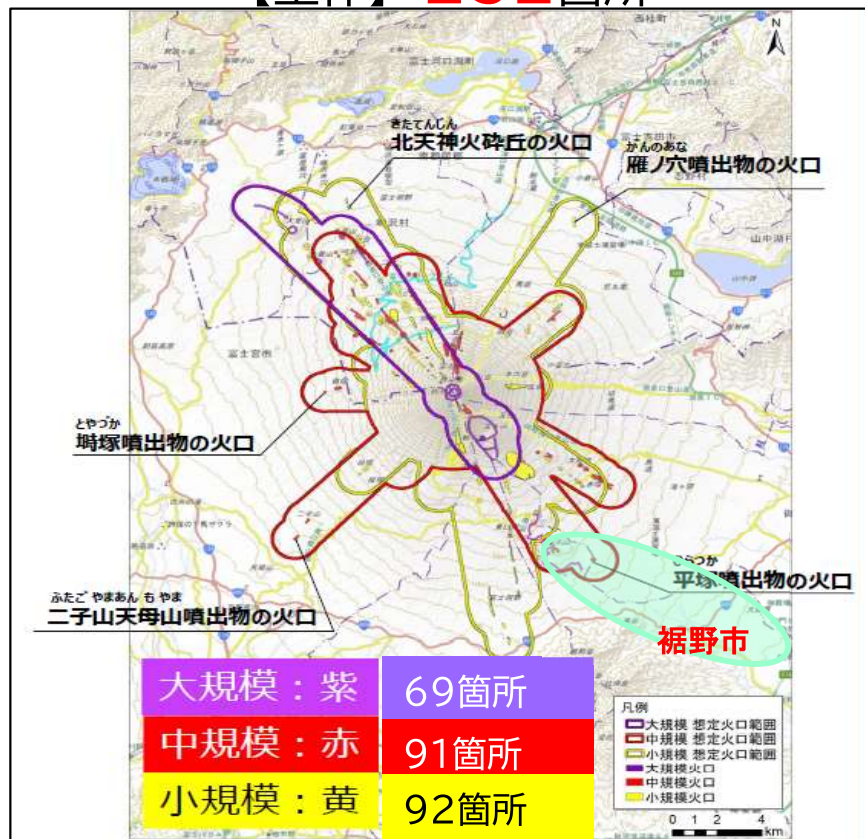
裾野市に影響のある溶岩流の流下ライン



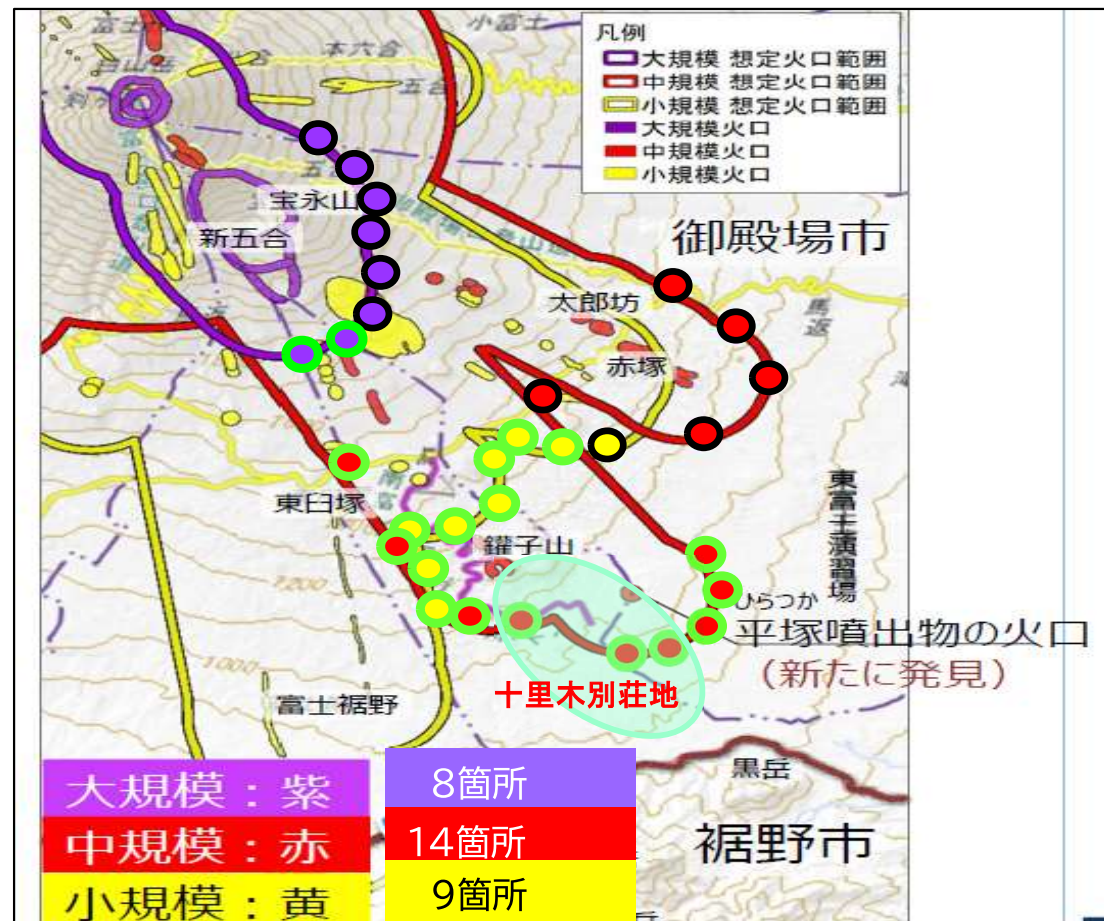
**裾野市の溶岩流
流下方向は、
大きく3方向**

裾野市に影響ある想定火口位置等

【全体】 **252**箇所



【裾野市影響火口】 **31**箇所 【須山地区影響火口】 **19**箇所(枠線)



★ 富士山が噴火した場合、裾野市への溶岩流の流下の確率は約1/8(31/252)

⇒ 須山地区：噴火活動が始まり、警戒レベルが上がれば動かないといけない。

① 火口位置(流下方向)

② 流下(到達)時間

グルーピング(クラスタリング)して、4つのラインに区分

噴火後避難における溶岩流の流下ライン等に応じた避難

須山ライン（対象7コ：小規模×3、中規模×4）



◆避難対象

25コ区・12,245人

◆流下の特徴

◇河川沿い迅速流下

（市南端迄約12時間）

◇市街地の多く流下想定外

◇市役所・福祉保健会館ともに健在

■避難の考え方等

□河川沿いに避難地域を絞り、「一時退避」実施後に、流下状況に応じた「市内避難」を実施

□避難対応（対象）地域を絞る。（川左右300m）

□1～2日目以降、細部指示

黄瀬川（M43）ライン（対象1コ：中規模×1）★特質ライン



◆避難対象

42コ区・20,774人

◆流下の特徴

◇御殿場方向から河川沿いに早く流下（市南端迄約2日）で流下し、約3.5日で市街地の広範囲に流下する。）

◇文化センター以北は、河川沿い流下（川左右300m絞る）

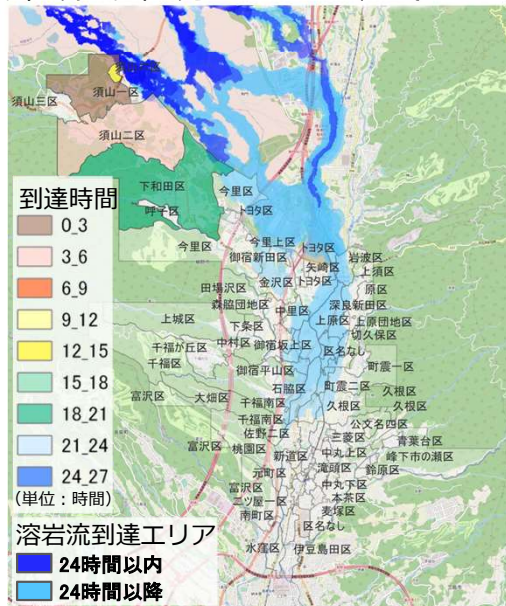
◇市役所・福祉保健会館ともに移転が必要

■避難の考え方等

□当初、河川沿いに避難地域を絞り「市内避難」しつつ、並行的に多数「広域避難」を実施

□ 県・隣接市町との連携

御殿場市境ライン（対象4コ：小規模×2、中規模×2）



◆避難対象

29コ区・約12,200人

◆流下の特徴

◇市街地への流下時間が遅い。（住宅地流下約4日、市街地流下時に、噴火位置はほぼ確定）

◇市街南側半分流下想定外

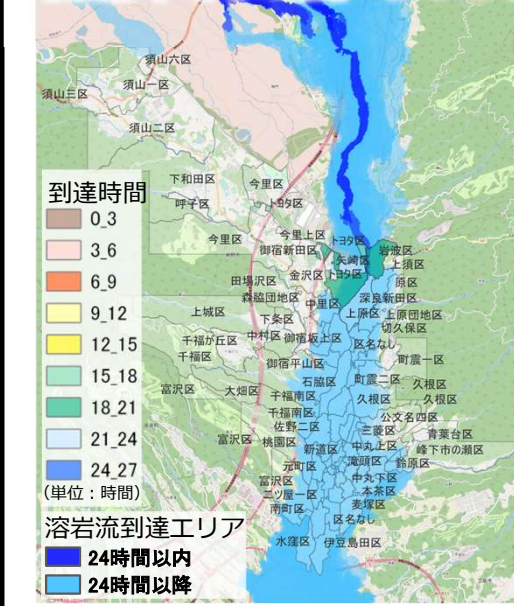
◇市役所は健在、福祉保健会館は移転必要

■避難の考え方等

□溶岩流の流れ（リアルタイムハザードマップ等）に応じ、「市内避難」を追求

※ 必要により市外、広域避難

黄瀬川（その他）ライン（対象12コ：小規模×1、中規模×4・大規模×7）



◆避難対象

（※今後、溶岩流流下面積比率で対象者数を絞ることを検討）

67コ区・40,428人

◆流下の特徴

◇御殿場方向から、河川沿いにゆっくり流下（市街地流下時に、噴火位置はほぼ確定）

◇ラインによっては、市街地の多く（ほぼ全域）に流下

◇市役所・福祉保健会館ともに移転が必要

■避難の考え方等

□溶岩流の流れ（リアルタイムハザードマップ等）に応じ「広域避難」を段階的に実施

※ 県・隣接市町との連携

区 名 須山地区	溶岩流の流下ライン				備 考 (想定火口該当数、 最短到達時間)
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
須山1区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				11コ(L38、M45～49、S46～50) 約40分(M48)
須山2区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				11コ(M45～50、S46～50) 約60分(M48)
須山3区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				5コ(M48～50、S49・50) 約40分(M48)
須山4区	噴火前避難 噴火警戒レベル3で高齢者等は、 須山研修センター等 へ避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				8コ(L39、M50～53、S51～53) 約15分(M51)
須山6区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				4コ(L38、M45・47、S46) ※孤立 約14時間(S46)
(十里木別荘) ※ 自治組織なし。	噴火前避難 噴火警戒レベル3で第1次避難対象エリアは住民全員、第2次避難対象エリアは高齢者等が 須山研修センター等 へ避難 噴火警戒レベル4で 深良中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				※ 避難対象エリア 1次: 想定火口位置 2次: 大噴石飛来等

自治組織毎の避難要領を整理(富岡地区ー①)

38

区 名	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
富岡地区					
千福区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1小)	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	20コ(L32～38、M40 ～46、S48～50) 約6時間(M49)
御宿平山区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	14コ(L32～38、M40 ～46) 約9時間(M43)
御宿上谷区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避: 近傍地区集会所→当時の状況)	要支援:噴火22h(富岡支所) 一般:噴火24h(一時退避:近傍 地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約7時間(M43)
御宿新田区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避: 近傍地区集会所→当時の状況)	要支援:位置概定・12h(深良中) 一般:噴火16h(一時退避:近傍 地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約6時間(M43)
御宿坂上区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	19コ(L32～38、M40～ 42、44～49、S48～50) 約5時間(M49)
御宿入谷区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1小)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	19コ(L32～38、M40～ 42、44～49、S48～50) 約5時間(M49)
上城区	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外
中村区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1幼)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	6コ(M47～49、S48～ 50) 約6時間(M49)
下条区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1小)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	6コ(M47～49、S48～ 50) 約6時間(M49)
中里区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	8コ(L32・33、M47～ 49、S48～50) 約4時間(M49)
田場沢区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	6コ(M47～49、S48～ 50) 約4時間(M49)
森協団地区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	1コ(S48) 約27時間(S48)

自治組織毎の避難要領を整理(富岡地区ー②)

39

区 名 富岡地区	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
上ヶ田区	<u>未流下</u>	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避: 近傍地区集会所→当時の状況)	要支援:噴火22h(富岡支所) 一般:噴火24h(一時退避:近傍 地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約7時間(M43)
金沢区	要支援:噴火同時(富岡支所) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1幼稚園)	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	11コ(L32～35、M45・ 47～49、S48～50) 約4時間(M49)
今里区	要支援:噴火同時(富岡支所) 一般:位置概定・1h(一時退避: 運動公園→(時の栖))	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	要支援:噴火16h(富岡支所) 一般:噴火24h(富岡支所) ※ 県道24号以东約100名)	8コ(M45～49、S48～ 50) 約3時間(M48)
今里上区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>
下和田区	要支援:噴火前(東中) 一般:位置概定・1h(一時退避: 時の栖→(時の栖))	<u>流下想定外</u>	要支援:噴火前避難(東中) 一般: 未流下	要支援:噴火前避難(東中) 一般:位置概定・15h(富2小) ※ 県道24号以东約100名	9コ(M45～50、S48～ 50) 約2時間(M49)
呼子区	要支援:噴火同時(富岡支所) 一般:位置概定・1h(一時退避: 時の栖→(時の栖))	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	<u>流下想定外</u>	6コ(M47～49、S48～ 50) 約3時間(M48)
矢崎区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	要支援:噴火16h(深良中) 一般:噴火18h(一時退避:近傍 地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約6時間(M43)
トヨタ区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	要支援:なし。 一般:位置概定・10h(一時退 避:近傍地区集会所→当時の状 況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約6時間(M43)
御宿台区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	<u>流下想定外</u>	1コ(L34) 約760時間(L34)
千福が丘区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>
千福南区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→富1小)	要支援:噴火6h(富1小) 一般:噴火8h(富1小)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	18コ(L32～38、M40・41・ 43・44・46～49、S48～50) 約8時間(M49)

自治組織毎の避難要領を整理(深良地区一①)

40

区 名	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
深良地区					
町震1区	<u>流下想定外</u>	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火10h(深良支所)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40・41・43~46) 約15時間(M43)
町震2区	<u>流下想定外</u>	要支援:位置概定・1h(深良中) 一般:噴火5h(深良中)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	14コ(L32~38、M40~46) 約10時間(M43)
舞台団地区	<u>流下想定外</u>	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	14コ(L32~38、M40~46) 約10時間(M43)
南堀区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	<u>流下想定外</u>	3コ(L32~34) 約515時間(L34)
和市区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40~42・44~46) 約72時間(M44)
遠道原区	<u>流下想定外</u>	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況による。)	要支援:噴火22h(深良中) 一般:噴火24h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	14コ(L32~38、M40~46) 約8時間(M43)
切久保区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40~42・44~46) 約82時間(L36)
上原区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40~42・44~46) 約55時間(M44)
上原団地区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	<u>流下想定外</u>	1コ(L34) 約394時間(L34)

自治組織毎の避難要領を整理(深良地区一②)

41

区 名	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
深良地区					
原区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	<u>流下想定外</u>	6コ(L32～35・38、M40) 約188時間(M40)
上須区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32～38、M40～42・44～46) 約61時間(M44)
深良新田区	<u>流下想定外</u>	要支援:位置概定・1h(深良中) 一般:位置概定・3h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況による。)	要支援:噴火16h(深良中) 一般:噴火18h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	15コ(L32～38、M40～46、S44) 約6時間(M43)
岩波区	<u>流下想定外</u>	要支援:位置概定・1h(深良中) 一般:位置概定・3h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況による。)	要支援:位置概定・12h(深良中) 一般:噴火16h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	15コ(L32～38、M40～46、S44) 約6時間(M43)

自治組織毎の避難要領を整理(西地区-①)

42

区 名 西地区	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
石脇区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→深良中)	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小・富岡中) (2)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	20コ(L32~38、M40 ~49、S48~50) 約7時間(M49)
佐野上宿区	流下想定外	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	12コ(L32~38、M40・ 41・43・44・46) 約15時間(M43)
佐野本宿区	流下想定外	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	12コ(L32~38、M40・ 41・43・44・46) 約18時間(M43)
佐野若狭区	流下想定外	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	11コ(L32~38、M40・ 41・43・44) 約23時間(M43)
佐野2区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→深良小・深 良支所・裾野高(3))	要支援:噴火6h(富1小) 一般:噴火8h(東小・向田小)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	18コ(L32~38、M40・41・ 43・44・46~49、S48~50) 約7時間(M49)
大畑区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→裾野高)	要支援:噴火6h(富1小) 一般:噴火8h(東小)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	18コ(L32~38、M40・41・ 43・44・47~49、S48~50) 約7時間(M49)
上町区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→深良小・生 涯学S・深良幼稚園(3))	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・ 43・44・46~49、S48~50) 約8時間(M49)
緑町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※ 広域避 難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・ 43・44) 約36時間(M43)
元町区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→生涯学S・ 市民体育館(2))	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・ 43・44・47~49、S48~50) 約8時間(M49)

自治組織毎の避難要領を整理(西地区-②)

43

区 名 西地区	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
桃園区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→裾野高・市 民体育館・東西公民館(3)	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・ 43・44・47~49、S48~50) 約8時間(M49)
富沢区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→南小・東小 (2)	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・ 43・44・47~49、S48~50) 約9時間(M49)
南町区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→いずみ幼稚 園	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※ 広域 避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	15コ(L32~38、M41・43・ 44・47~49、S49・50) 約10時間(M49)
二ツ屋1区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→裾野高	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	16コ(L32~38、M41・43・ 44・47~49、S48~50) 約9時間(M49)
二ツ屋2区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→東小	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・ 43・44・47~49、S48~50) 約9時間(M49)
堰原区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→向田小	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※ 広域 避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	16コ(L32~38、M41・43・ 44・47~49、S48~50) 約10時間(M49)
伊豆島田区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※ 広域 避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・ 43・44) 約45時間(M43)
水窪区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→東小・向田 小(2)	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※ 広域 避難)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	15コ(L32~38、M41・43・ 44・47~49、S49・50) 約10時間(M49)

自治組織毎の避難要領を整理(東地区-①)

44

区 名 東地区	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
久根区	流下想定外	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(東小))	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	12コ(L32~38、M40・41・43・44・46) 約15時間(M43)
公文名1区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難))	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M40・41・43) 約32時間(M43)
公文名2区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	7コ(L32~36・38、M43) 約48時間(M43)
公文名3区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約310時間(L38)
公文名4区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約247時間(L38)
公文名5区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	流下想定外
稲荷アルミ区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約248時間(L38)
中丸上区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難))	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約42時間(M43)
中丸中区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難))	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約54時間(M43)
中丸下区	流下想定外	要支援:噴火24h以降(東小) 一般:噴火48h以降(※広域避難))	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35、M43) 約74時間(M43)
天理町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難))	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約56時間(M43)
滝頭区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	4コ(L32~35) 約443時間(L35)
本茶区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約877時間(L33)
道上区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約888時間(L33)

自治組織毎の避難要領を整理(東地区-②)

45

区 名 東地区	溶岩流の流下ライン				備 考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
峰下市の瀬区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約926時間(L33)
鈴原区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約927時間(L33)
茶畑団地区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約1,017時間(L33)
青葉台区	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外
和泉区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約790時間(L34)
富士見台区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約70時間(M43)
麦塚区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約342時間(L38)
新道区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	9コ(L32~38、M41・43) 約38時間(M43)
東町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約52時間(M43)
本通り区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	9コ(L32~38、M41・43) 約61時間(M43)
日の出元町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・43・44) 約63時間(M43)
本村上中区	要支援:噴火24h以降(東小) 一般:噴火24h以降(一時退避:近傍地区集会所→南児童館)	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	12コ(L32~38、M41・43・44、S49・50) 約29時間(M43)
本村下区	流下想定外	要支援:噴火24h以降(東小) 一般:噴火48h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・43・44) 約95時間(M43)

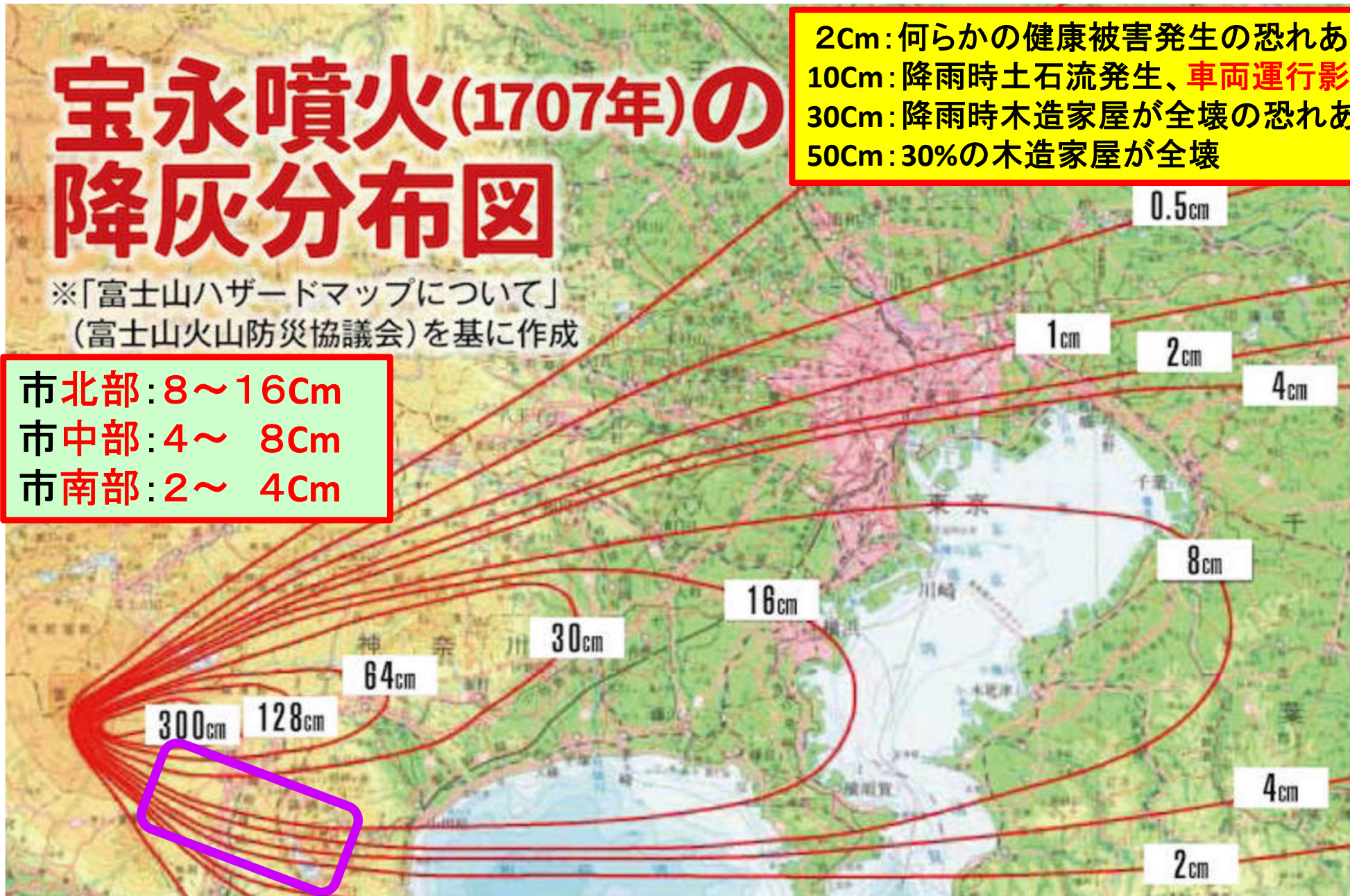
★ 新たなハザードマップは、降灰シミュレーション等を行っていないため、**平成16年度版を再掲** ※ **裾野市**の可能性マップ最大値**30~50Cm**

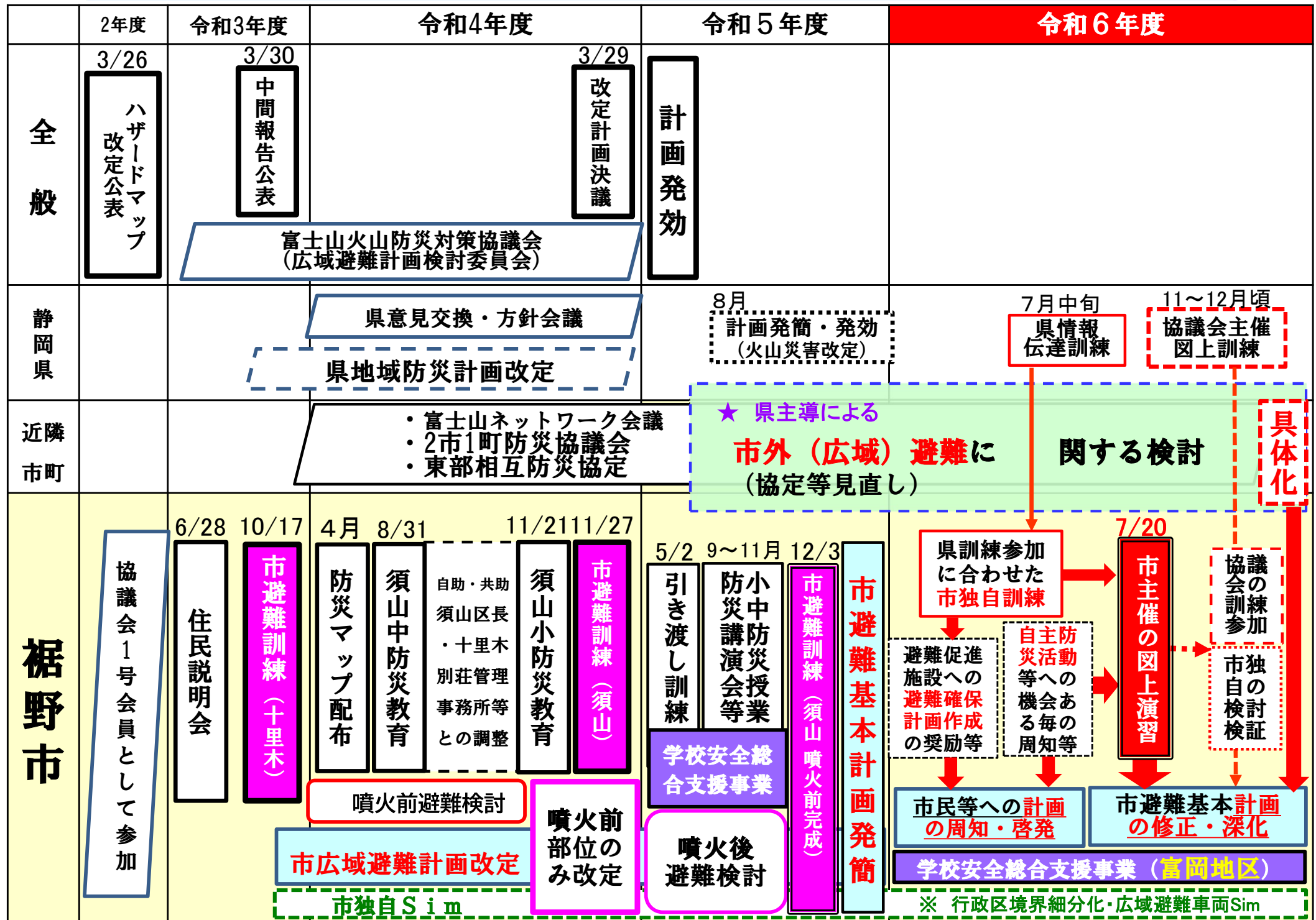
宝永噴火(1707年)の降灰分布図

※「富士山ハザードマップについて」
(富士山火山防災協議会)を基に作成

市北部: 8~16Cm
市中部: 4~ 8Cm
市南部: 2~ 4Cm

2Cm: 何らかの健康被害発生の恐れあり。
10Cm: 降雨時土石流発生、**車両運行影響大**
30Cm: 降雨時木造家屋が全壊の恐れあり。
50Cm: 30%の木造家屋が全壊





共助（コミュニティ）の必要性
（地区防災計画策定推奨）

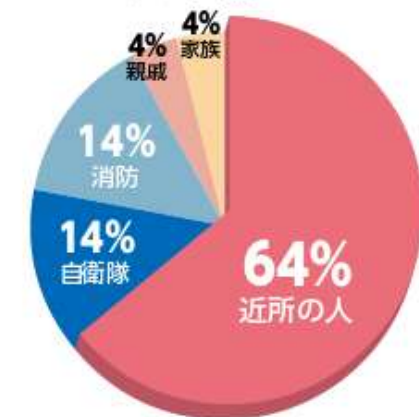
【過去災害からの教訓】

- ◆ 1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災では「公助」である消防、警察、自衛隊などの救助隊による救出よりも、多くの方が自力や家族、隣人等による「自助・共助」で救出された調査結果

⇒ 阪神・淡路大震災では地域住民が救出の主役だった。

- ◇ 人命救助活動について聞き取り調査をした結果で、「近所の人」「親戚」「家族」が約7割を占めた。被災者の生死を分けるのは、災害発生後72時間といわれており、この限られた時間内に、救助隊の到着を待たずに被災者をすくうことが出来るのは、その場に居合わせた私たち自身です。

■ 阪神・淡路大震災で人命救助をした人の内訳



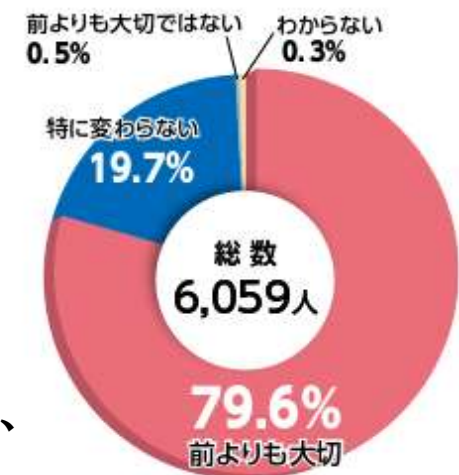
(「1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5)神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査」宮野道雄(大阪市大)他、1996年日本建築学会大会学術講演梗概集)

- ◆ 2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災では、地震や津波によって多くの死者・行方不明者が発生、市町の行政機能が麻痺し公助の限界が見られた中、各処において地域コミュニティによる①倒壊した自宅から共助によって救出、②助け合って避難、③助け合って避難所の運営、④助け合って在宅避難、等の例が多く見られた。

⇒ 東日本大震災後、「社会の絆」を重視する意識が高まった。

- ◇ 内閣府の「社会意識も関する世論調査」によると、東日本大震災後、社会の結び付きを「前よりも大切だと思うようになった。」という人は、全体の約8割を占めました。

■ 震災前と比べた、社会における結びつきの意識変化



共助の重要性

- ◎ このような地域コミュニティにおける共助の働きを受け、**災害対策基本法」が改正**
 - 阪神・淡路大震災での教訓反映 ⇒ 1995年改正「ボランティアに関する規定が追加」
 - 東日本大震災での教訓反映 ⇒ 2012年改正「教訓伝承、防災教育の強化等に関する規定」
 - 「**地区防災計画制度**」が2014年4月施行、「**地区防災計画ガイドライン**」公表
- ◎ H26年～H28年度に地域コミュニティの活性化に向けて、
「**地区防災計画モデル事業**」が行われ、**成果と課題を反映**
⇒ **令和2年「地区防災計画の素案作成支援ガイド」**（自治体職員向け）

裾野市の共助の現状

- ◆ 86区の自主防災会 ⇒ 防災に関する**取組みに格差** ※ 計画作成、防災訓練、資機材備蓄等
- ★ **いつ災害が発生してもおかしくはない（蓋然性が高い）状況**
 - 南海トラフ地震 : M8～9クラスの地震発生確率 **30年以内で70～80%**
 - 富士山噴火 : **宝永噴火1707年から317年が経過**

◎ **災害発生時に対応できる準備が必要** ★ **特に、初動が重要**

地区防災計画作成の作成

- ◇ 令和3年度から、市として「**地区防災計画**」作成を奨励
- ◇ 地区防災計画作成要領は様々だが、**まずは作成してみる事が重要！**
⇒ **災害発生時の初動に焦点を当てて簡潔に作成**
 - ① **定型**に当てはめて作成（**フォーマットの定型**を市で準備）
 - ② **危機管理課職員動員**（**区毎の担当を決め、作成に関する支援・助言等を実施**）
- ★ **既存計画を保有する自主防災会は見直し機会として活用**
- ★ 作成後、**逐次内容を見直し、掘り下げ、拡充（深化）させる。**
本来は、**平常時・災害警戒時・復旧・復興時の各段階毎に詳細に作成**するもの。

地区防災計画の作成奨励（令和6年度作成担任）

51

【作成・保有自主防災会】 54区／86区（十里木含む。） 令和5年4月1日現在
★ 未作成の自主防災会は、下記31区（十里木）である。

地区	区（自主防）	担任
東	久根	齊藤係長
東	公文名2	齊藤係長
東	公文名3	齊藤係長
東	公文名5	齊藤係長
東	稻荷アルミ	齊藤係長
東	中丸中	齊藤係長
東	中丸下	齊藤係長
東	天理町	服部課長
東	峰下市の瀬	田代主査
東	茶畑団地	田代主査
東	和泉	田代主査
東	新道	田代主査
東	本通り	田代主査
東	日の出元町	田代主査
東	本村上中	西川主事
東	本村下	西川主事

地区	区（自主防）	担任
西	石脇	源主任
西	佐野上宿	源主任
西	元町	源主任
西	桃園	源主任
西	富沢	源主任
西	伊豆島田	源主任
富岡	千福	中野主事
富岡	御宿上谷	中野主事
富岡	下条	中野主事
富岡	田場沢	中野主事
富岡	金沢	中野主事
富岡	今里上	中野主事
富岡	矢崎	西川主事
富岡	御宿台	西川主事
深良	舞台団地	西川主事
須山	須山5区（十里木別荘地）	調整監

県防災アプリ普及

県防災アプリの活用

★コロナ禍の密防止、デジタル化

- ◆ 令和元年6月1日からスマートフォン向けで運用開始
- ◆ 主要な6つの機能
 - ①防災情報・お知らせ
緊急防災情報を確認（外国人市民対応）
 - ②現在地の防災情報
現在地の危険度がわかる。
 - ③マップ・避難場所等
地域の危険性や避難先を把握
 - ④AR（危険度体験）
現在地の浸水状況等をイメージ
 - ⑤避難トレーニング：防災訓練等に活用
 - ⑥学習コンテンツ：防災知識のテスト

★ アプリをインストール



★ 避難所支援機能

- 避難所の状況把握(開設状況等)
- 避難前に必要項目(内容)等を入力
 - ※ 避難所受付の簡略(非接触)化
- 避難後(所)の連絡・情報共有に活用

令和6年度**防災訓練**等業務予定

令和6年度防災訓練等に関する主要業務予定

55

		～4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4四半期
全 般		24 自主防総会	水防月間	2 全国土砂災害 防災訓練 8 防災交流会	初～中旬 富士山火山防災 県情報伝達訓練 20 自主防役員訓練会	8月下旬～9月初旬 裾野市総合防災訓練	1 県総合防災訓練 (伊東・熱海)	19・20 フェスタすその 国民保護会議	中旬 防災の集い (日時・講師検討)	1 県地域防災訓練	2月中旬 防災会議 1月中旬 県大規模図上訓練
本部運営 (情報伝達)		職員招集(メール・電話)訓練	4/8～5/10 班練成訓練 期間(設定)	6月上～中旬 #1情報伝達訓練		状況により、 #2情報伝達訓練				職員招集(メール等)訓練	
総合 防災 訓練	本部 運営			広域避難地班要員訓練 (倉庫点検・応急危険度判定訓練倉)	20 富士山 火山避 難図上 #1訓練	8月下旬 #2訓練				システム導入訓練	
	モデル 地区			2 水防・土砂災害訓練 (桃園区)	※要配慮者利用施設 ※排水ポンプデモ		1 平松大区(東町他5区) (大規模震災想定) ※ペット等配慮				
	医療救護							救護所訓練		遺体安置所訓練	
	消防団						下旬の土・日 土嚢積み訓練 31 県防災ヘリ支援 #1ヘリ誘導訓練 消防団員対象 (場所検討中)				
	ヘリ誘導									1 陸自ヘリ支援 #2ヘリ誘導訓練 住民対象 (孤立予想地域)	
	地 区				「食物アレルギーへの配慮」検討		※ 年間を通じ(機会ある毎に)実施				
地域防災 訓練					「地区防災計画」普及期間 地区防災 計画作成 等奨励		1 安否確認等			10月～12/3の間 地区防災訓練(自主防計画) ※ 所 属 長 等 の 現 地 確 認 ・ 激 励	
富士山 火山防災		学校安全総合 支援事業協力			7月頃～ 小学校防災授業 初～中旬 県情報伝達訓練参加 ※市独自訓練企画	20 富士山 火山避 難図上 #1訓練	2 富岡地区学校 引き渡し訓練	19・20 フェスタすその活用 市民への周知啓発 30(AM) 富岡中防災授業 (4h:1年生対象)	協議会主催 図上訓練参加		避難基本計画策定・計画修正・深化
国民保護			GW後 課内訓練(図上)					10月～11月頃 国民保護会議			警察との打ち合わせ(現地確認)

		4月	5月	6月		7月	8月以降
全 般	主要業務			2(日) 水防・土砂災害防災訓練(桃園) ◆桃園区を活用した区内境界の検証・プレ等 ※訓練研究会での参加区民への災害対象区域の説明 ----- 関係防災機関等との調整(打ち合わせ)・現地確認等		中旬 ★<u>県情報伝達訓練(市主催避難訓練)</u> ※<u>避難促進施設</u> ----- 調整会議開催	11~12月 協議会主催 図上演習 2月中旬 1(日) 防災会議
	自主防災会	市防災 24(水) 全般 年度当初総会 ◆演習開催・準備案内(区内境界等)	14(火) 水防・土砂災害 #1勉強会 ◆演習準備細部説明石脇区をモデルとした作業の完成体イメージを説明	8(土) 防災交流会 ◆<u>区長</u>等に対する演習開催の説明	富士山 25(火) 火山災害 #2勉強会 ◆演習準備・演習実施要領の説明等	----- 各自主防との個別調整等	総合防災訓練 10~12月 地域防災訓練
準備・成果等	準備要領	① 各区毎の区内細分化の<u>作業用紙を配布</u>(各区配布資料として)	① 石脇区モデルのイメージ資料(データ)準備 ② 4/24総会時に各区に依頼した<u>作業用紙回収</u> ※<u>交付USBの回収</u>	① 演習概要説明資料(データ)準備	① 各区細分化と溶岩流の流下データが入った<u>交付USBの返納</u>	検討事項:内閣府訓練支援受け	
	成果目標等	◇自主防災会長への<u>演習開催の認識付与</u>及び<u>作業用紙の配布</u>(不参加区等へは送付)	◇自主防災会長に作成すべき作業の完成体イメージ等の認識付与 ◇依頼した作業用紙全区分の回収(未回収区等への連絡・別途回収)	◇区長等への演習開催の認識付与と作業用紙回収及び演習参加等の協力依頼	◇各区への区内細分化データ等の付与 ◇演習内容・準備要領の認識付与	◆<u>県情報伝達訓練(市主催避難訓練)</u> ※特に、<u>新たな避難促進施設の参加を促す。</u>	【演習目標】 1 富士山火山噴火における<u>噴火前～噴火後の避難要領・流れについて認識・イメージアップ</u>させる。 ① 各区(自主防災会) ② 防災関係機関等を含む災害対策本部 2 <u>地区防災計画策定奨励</u>合わせて<u>行政区内細分化・データ化の整備・促進</u>

本日配布する地図(作業用紙)について

★ トヨタ未来創生センター様から説明

質疑応答

【ハザードマップ改定のポイント】

① 対象噴火年代の拡大

3,200年前 → 5,600年前 **2400年前遡った。**

※ 最新の調査結果で想定火口範囲変更(拡大)

② 大規模溶岩流の溶岩噴出量の見直し。

7億m³ → 13億m³ **約2倍**

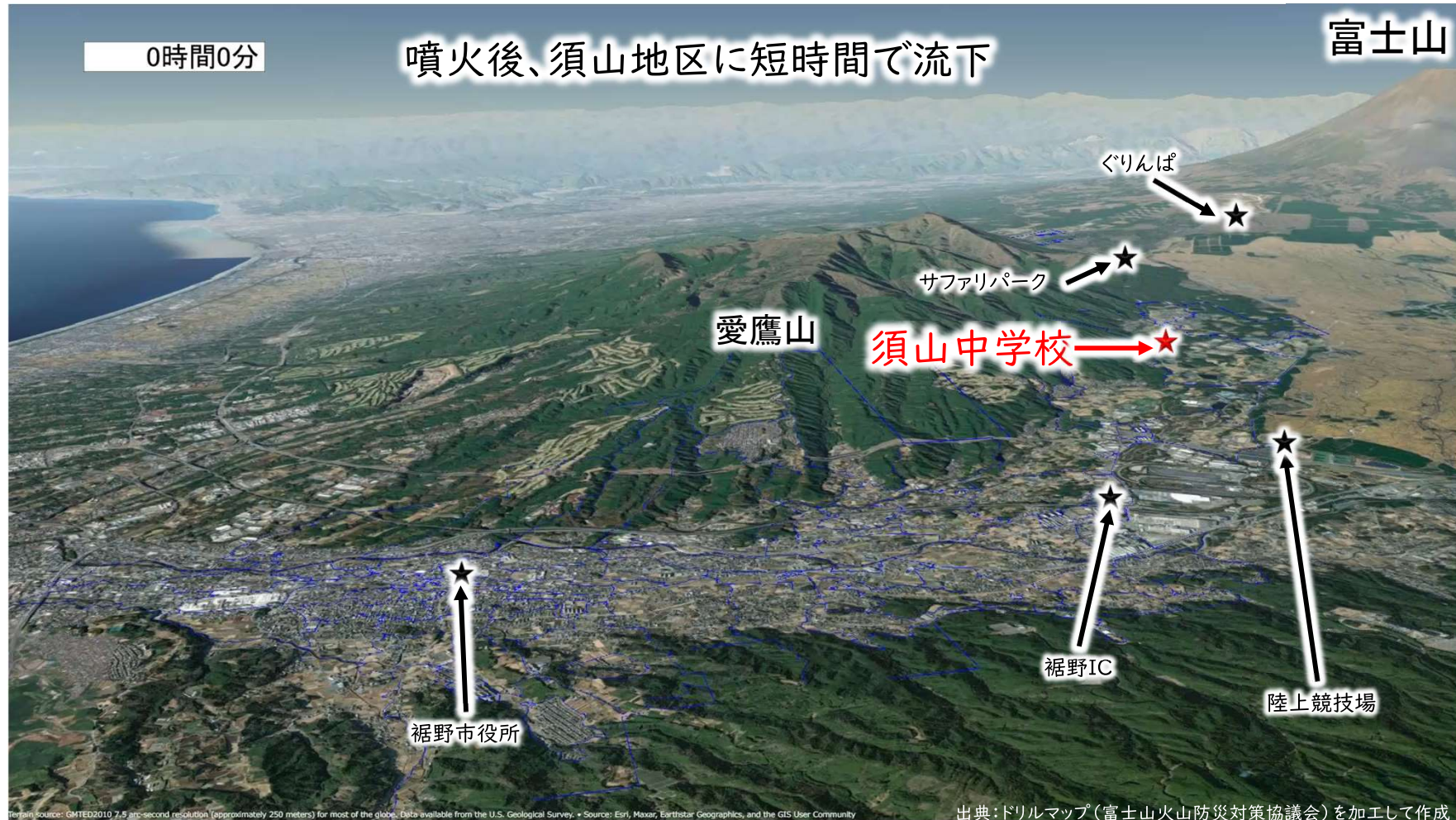
③ **地形メッシュサイズの変更**によるより精緻な分析

溶岩流(200m)、火砕流等(50m) → **20mへ**

⇒ 溶岩流の流下が速く、広くなった。

(配布資料なし)

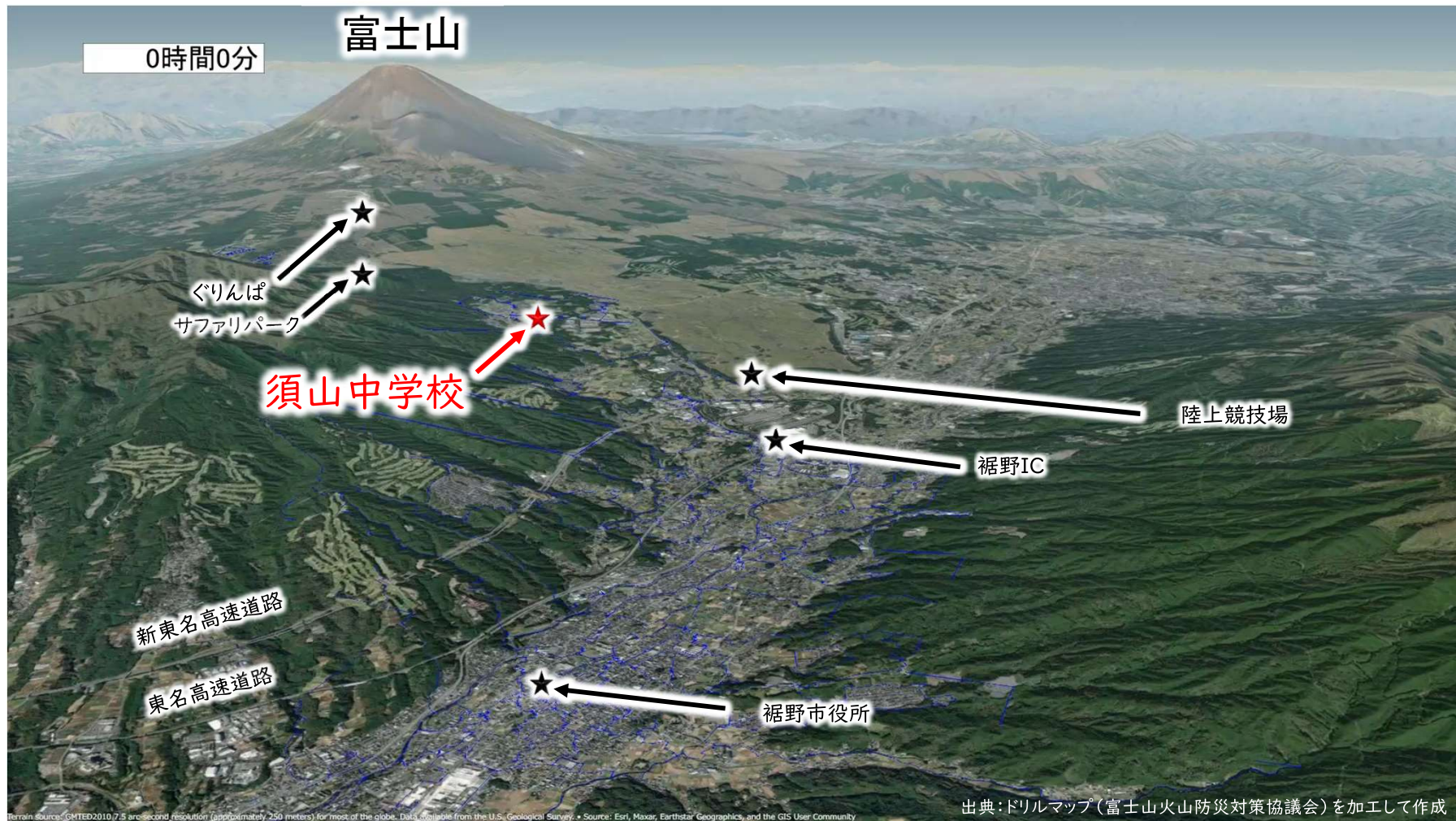
溶岩流可視化3D(M48): 須山地区に流入あり



【トヨタ未来創生センター提供受】

(配布資料なし)

溶岩流可視化3D(M43): 須山地区に流入なし



【トヨタ未来創生センター提供受】

④ 須山地区全域の噴火前避難

■ 第1次避難対象エリア (想定火口範囲)

十里木高原別荘地(富士急:芙蓉の森林地区及び南富士:3区・2区一部)

第1次避難対象エリア 51世帯 93名(定住者)

噴火警戒レベル3で避難

■ 第2次避難対象エリア

(火砕流等、大きな噴石、融雪型火山泥流 (一部))

※ 噴火警戒レベル3発表に伴い、十里木高原(2次避難対象エリア)は、「高齢者等避難」(仮称)発令

⇒ 須山コミセン・研修センターへ避難

■ 第3次避難対象エリア

溶岩流 (3時間以内)
到達範囲

⇒ 予備的避難地域も含め

「**須山地区全域**」

下和田区避難行動要支援者

須山地区住民避難 R6. 1. 1現在数

■ 十里木別荘地・須山4区住民

- 十里木別荘地 約677人 約386世帯
- 須山4区 56人 22世帯

■ 須山区地区住民 (4区を除く。)

- 須山1区 359人 142世帯
- 須山2区 327人 125世帯
- 須山3区 400人 145世帯
- 須山6区 435人 173世帯

合計: 約2,254人 約993世帯
+ α (行楽客・工業団地関係者等)

★ 避難経路(主要)

○ 国道469号～県道24号沿い
(1～4区・6区)

○ 国道469号～市道4054～4053号沿い
(十里木別荘地)

下和田区の避難行動要支援者避難

気象庁が発表する

噴火警戒レベル

4

避難
開始
時期

避難指示
発令時期

避難行動要支援者
※一般住民は、噴火
直後に必要な範囲

避難先

【裾野市内南東地域への避難】

市内
避難

深良中体育館

905人

東中体育館

1,410人

地区防災計画について

地区防災計画とは？

地区居住者などが、**自発的に行う防災活動の計画を記したものです**。
自分達で地区防災計画を定めることには難しさを感じるかもしれませんが。
しかし、地区の特性を最もよく知っているのは、ほかでもない**居住者の皆さん**です。自分たちの**命と地区を守る**ためにも、地区防災計画の作成に積極的に取り組みましょう。

地区防災計画の3つの特徴

① 地区コミュニティが主体となって作成する計画

地区防災計画では、地区の特性を知る居住者や事業者が、主体かつ協働で作成するものです。計画を通じて、**地区に住む交流や連携が進み、地域の活性化も図れます**。

② 地区の特性に合わせて作成する計画

地区防災計画では、**自分の住む地区に合わせて作成する計画**です。地区によって**自然の特性や災害特性も異なる**ので、それらを踏まえた計画を作成することがポイントとなります。

③ 継続的に地域防災力を向上させる計画

地区防災計画は、**1回作ったら終わりではありません**。地区居住者などは、**定期的（毎年）見直し**を行い、継続していくことが重要です。

共助の重要性 ⇒ 計画作成の必要性

- ◎ このような地域コミュニティにおける共助の働きを受け、**災害対策基本法」が改正**
 - 阪神・淡路大震災での教訓反映 ⇒ 1995年改正「ボランティアに関する規定が追加」
 - 東日本大震災での教訓反映 ⇒ 2012年改正「教訓伝承、防災教育の強化等に関する規定」
 - 「**地区防災計画制度**」が2014年4月施行、「**地区防災計画ガイドライン**」公表
- ◎ H26年～H28年度に地域コミュニティの活性化に向けて、
「**地区防災計画モデル事業**」が行われ、**成果と課題を反映**
⇒ **令和2年「地区防災計画の素案作成支援ガイド」**（自治体職員向け）

裾野市の共助の現状

- ◆ 86区の自主防災会 ⇒ 防災に関する**取組みに格差** ※ 計画作成、防災訓練、資機材備蓄等
- ★ **いつ災害が発生してもおかしくはない（蓋然性が高い）状況**
 - 南海トラフ地震 : M8～9クラスの地震発生確率 30年以内で70～80%
 - 富士山噴火 : 宝永噴火1707年から**317年**が経過

◎ **災害発生時に対応できる準備が必要** ★ **特に、初動が重要**

地区防災計画作成の作成

- ◇ 市として令和3年度より「**地区防災計画**」作成を奨励
- ◇ 地区防災計画作成要領は様々だが、**まずは作成してみる事が重要！**
⇒ **災害発生時の初動に焦点を当てて簡潔に作成**
 - ① **定型**に当てはめて作成（フォーマットの定型を市で準備）
 - ② 危機管理課**職員動員**（区毎の担当を決め、作成に関する支援・助言等を実施）
- ★ **既存計画を保有する自主防災会は見直し機会として活用**
- ★ 作成後、**逐次内容を見直し、掘り下げ、拡充（深化）させる。**
本来は、**平常時・災害警戒時・復旧・復興時の各段階毎に詳細に作成**するもの。

裾野市の共助の現状

- ◆ 86区の自主防災会で防災に関する取組みに格差
 「令和2年度防災モデル地区（遠道原区）訓練」令和2年10/4(日)生涯学習センター
 「コロナ禍の特性を踏まえた避難所の開設・避難者受入れ」について実員訓練



- ※ 他自主防災会会長に研修をしてもらい（72区参加/85区）
訓練研修アンケートを実施

⇒ 防災意識や取組みに格差（計画作成、防災訓練、資機材（備蓄）等）

★ いつ災害が発生してもおかしくはない（蓋然性が高い）状況

- 南海トラフ地震：M8～9クラスの地震発生確率 30年以内で70～80%
- 富士山噴火：宝永噴火1707年から317年が経過
- 近年の異常気象：昨年度（6～7月）の梅雨前線停滞に伴う大雨対応等

◎ 災害発生時に対応できる準備が必要 ★ 特に、初動が重要

地区防災計画の定型（フォーマット）一例

■ 自分達が居住する地域の特性をしっかり把握！

○ 対象災害種別は？→浸水or土砂or火山？

○ 危険個所は？（具体的に）

■ 自分達の防災体制（態勢）を確認！

○ 集まる場所は、誰が開ける・鍵は誰が保有？

○ 避難要支援者は・誰がどのように助ける？

令和3年 月 日

（ ）区地区防災計画(骨子)

■ 今計画(骨子)作成の趣旨

自主防災会(区)の防災上の特性を把握し、災害発生時の主要な行動、特に初動に、関する準拠について示すもの。

※ 本来、地区防災計画は平常時、災害警戒時、復旧・復興時の各段階毎に詳細に作成するものであるが、まずは、災害発生時の初動に焦点を当てて簡潔(定型にあてはめて)に作成し、逐次内容を掘り下げ、拡充していく。

中

該当 (○×)	災害種類	災 害 概 要
○	洪水(浸水)	■ 黄瀬川・大柄沢川の想定浸水区域、 【浸水深】 川沿い:5.0m 以上、3.0~5.0m 未満 その他:3m 未満
×	土砂災害	
○	富士山噴火	■ 火口位置及びラインにより、最短、 黄瀬川沿い(6~12hで溶岩流到達)
	その他	

危険個所 (写真等貼付)	■ 黄瀬川、大柄沢川沿い、 の護岸及び用水路等	写真貼付
-----------------	----------------------------	------

人 口 世帯数	■ 区人口()人 男×()人、女×()人 ■ 世帯数 ()世帯
------------	--

要配慮者 情 報	■ 個別計画作成者数 : ()人 □ 高齢者 □ 障がい者 ■ 外国人情報
-------------	---

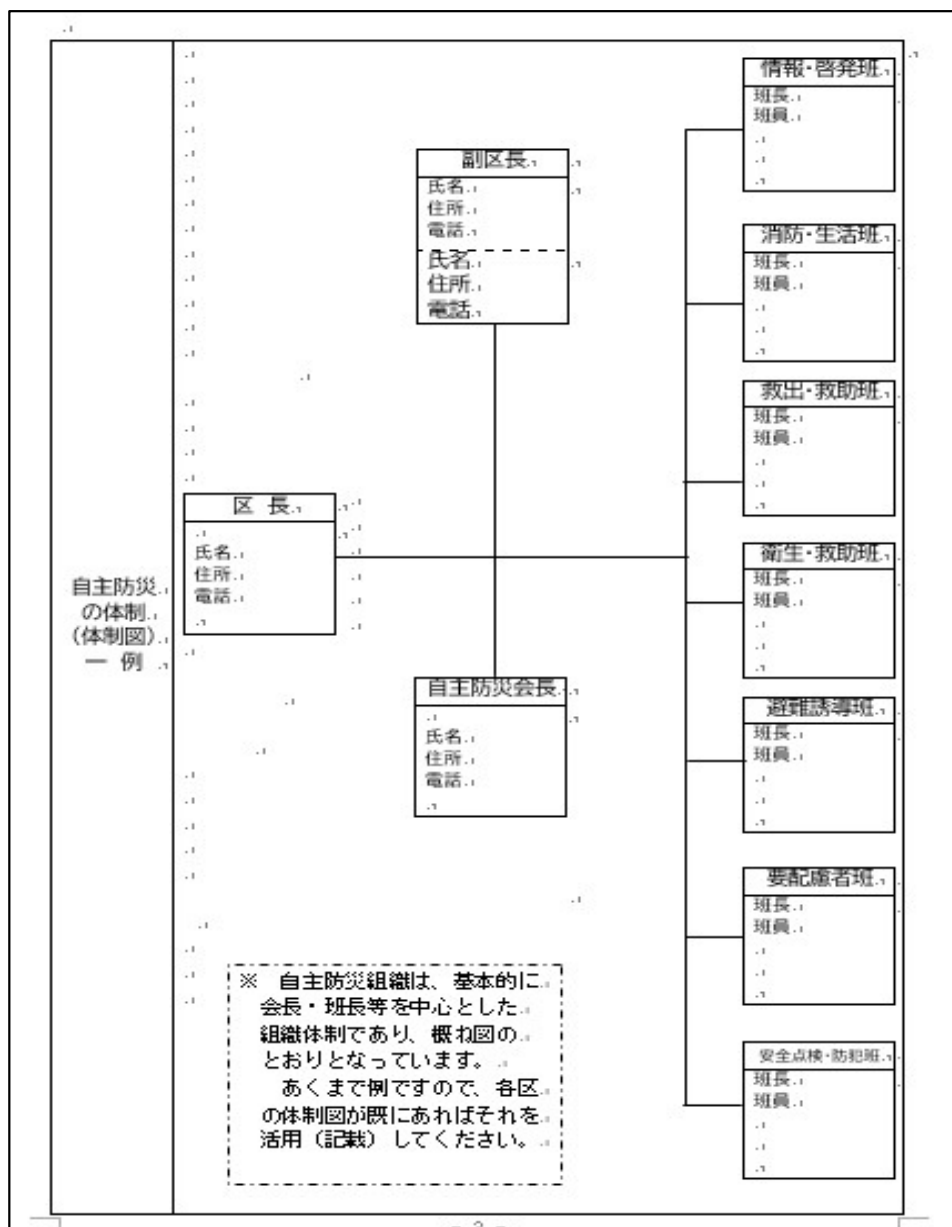
その他 共有すべき 情報	■ 区の避難(集合場所)等 □ 場所 : □ 鍵の保管者 : (正): () (副): () ■ 指定避難所(広域避難地) 【一般避難所】(地震・その他災害) : () (風水、土石流等) : () 【福祉避難所(近傍)】 : () ■ 近傍の救護所 : ()
--------------------	---

★ ここが一番重要！！
(ここをしっかりと分析・把握)

区集合場所 の状況等 ※ 施設、 備蓄資材、 等	
区集合場所 から、 広域避難地、 等への経路	
その他	

地区防災計画の定型（フォーマット）一例

- **編成・役割を明確化！** ※ 年度毎で変わる場合は、しっかりと**申し受け・申し送りを実施**
 ○ **既に決めている場合はその編成**（各区の特性に応じて設定） ○ **平時と有事の役割を理解**
 ★ **避難所の開設・運営は、自主防（避難者）も参加**（災害時は、皆で協力！）



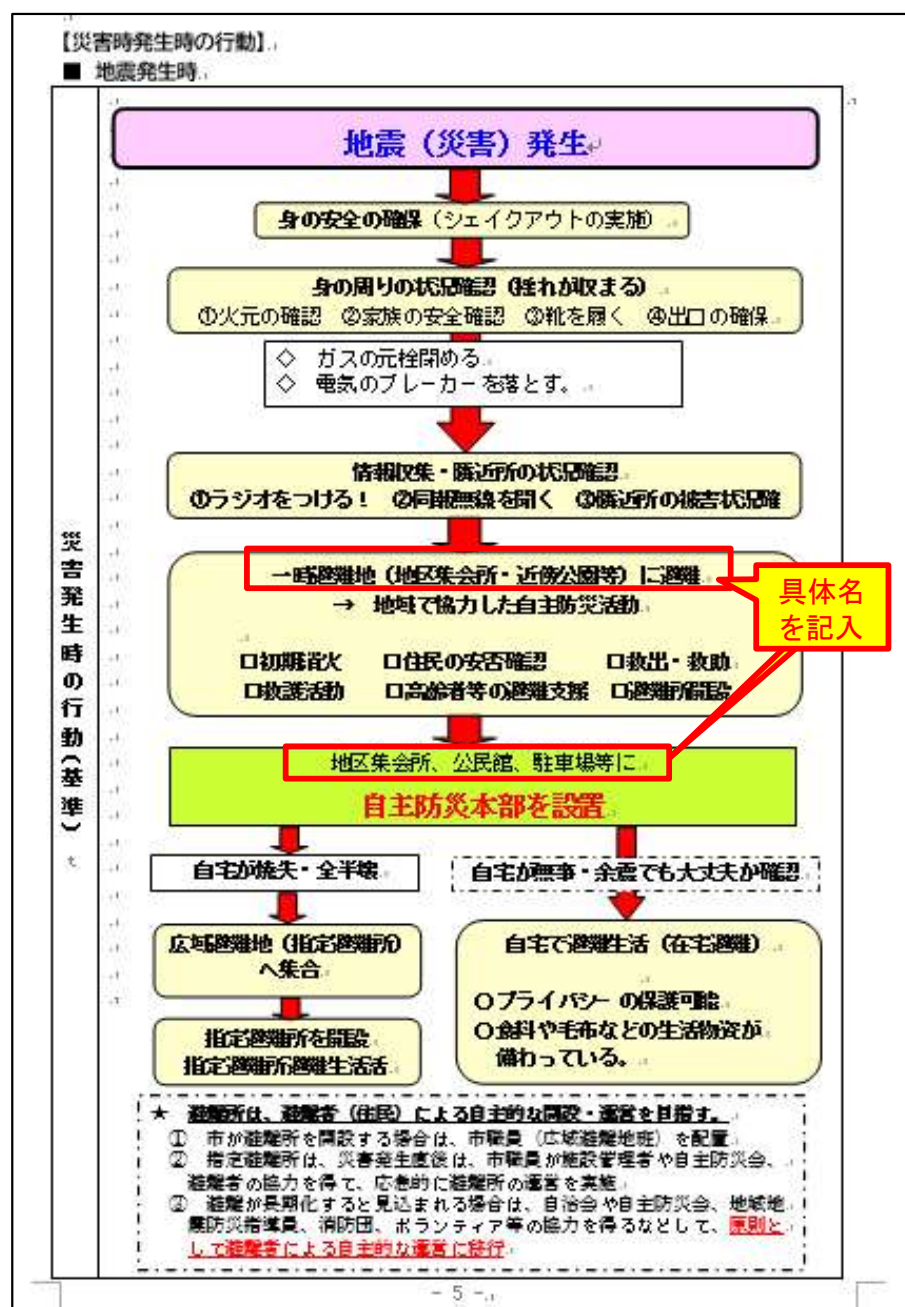
■ 災害時・平常時の役割（記載例）

役職・班の役割	災害時	平常時
区長	・自主防災活動の指揮 ・自主防災本部の運営	・組織の代表としての各班の総括
副区長	・会長の補佐・代理 ・区避難所の立ち上げ	・会長の補佐・代理
防災会長	・自主防災本部の設置 ・避難行動要支援者リスト、安否確認票準備 ・市指定避難所運営本部への参加	・防災訓練の計画 ・自主防災組織編制表の作成 ・安否確認台帳の作成 ・防災資機材整備計画の作成
情報・啓発班	・被害情報の把握・伝達 ・市災害本部からの情報収集 ・避難所運営本部との連絡調整 ・市災害本部（広域避難地）へ被害状況報告	・防災知識の普及・啓発 ・自主防災活動の情報収集 ・安否確認の啓発
消防・生活班	・出火場所の確認 ・消火活動人員の割り振り・指示 ・消防署への連絡 ・炊き出し及び食料の調達 ・飲料水・生活必需品の調達 ・在宅避難者の支援	・消火器・可搬ポンプ使用法の指導（マニュアル作成） ・消火訓練の実施 ・非常持出品の広報啓発 ・炊き出し用具の備蓄
救出・救助班	・要救助者の確認 ・救出人員の割り振り・指示	・救出用資機材の調達・整備 ・救助技術の習得 ・救出・救助訓練の実施
衛生・救護班	・搬送人員の割り振り ・重症者・中等傷者の搬送 ・軽症者の応急処置 ・食中毒・伝染病の予防 ・し尿処理対策の実施 ・ごみ収集所の管理	・応急手当や衛生知識の普及 ・トイレ対策の啓発 ・ごみ対策の検討
避難誘導班	・避難誘導の指揮 ・安否確認情報の収集 ・安否不明者のとりまとめ ・在宅避難者の把握	・集会所・危険箇所等の安全点検 ・避難訓練の実施
要配慮者班	・要配慮者（高齢者、障がい者）の避難誘導 ・要配慮者の安否確認の指揮 ・要配慮者の把握 ・要配慮者の避難行動支援	・避難行動要支援者の確認 ・個別計画の確認
安全点検・防犯班	・ブレーカー遮断の実施 ・ガス等の消忘れ防止の周知 ・地域内の安全点検 ・盗難等犯罪の防止	・防災倉庫の防災資機材の管理・点検 ・地域内の巡回点検 ・地域の危険物調査 ・防犯訓練の実施

地区防災計画の定型（フォーマット）一例

11

■ 地震災害時の行動等（基準）一例 ※ 既に保有計画はそれを使用、ない場合は作成に活用

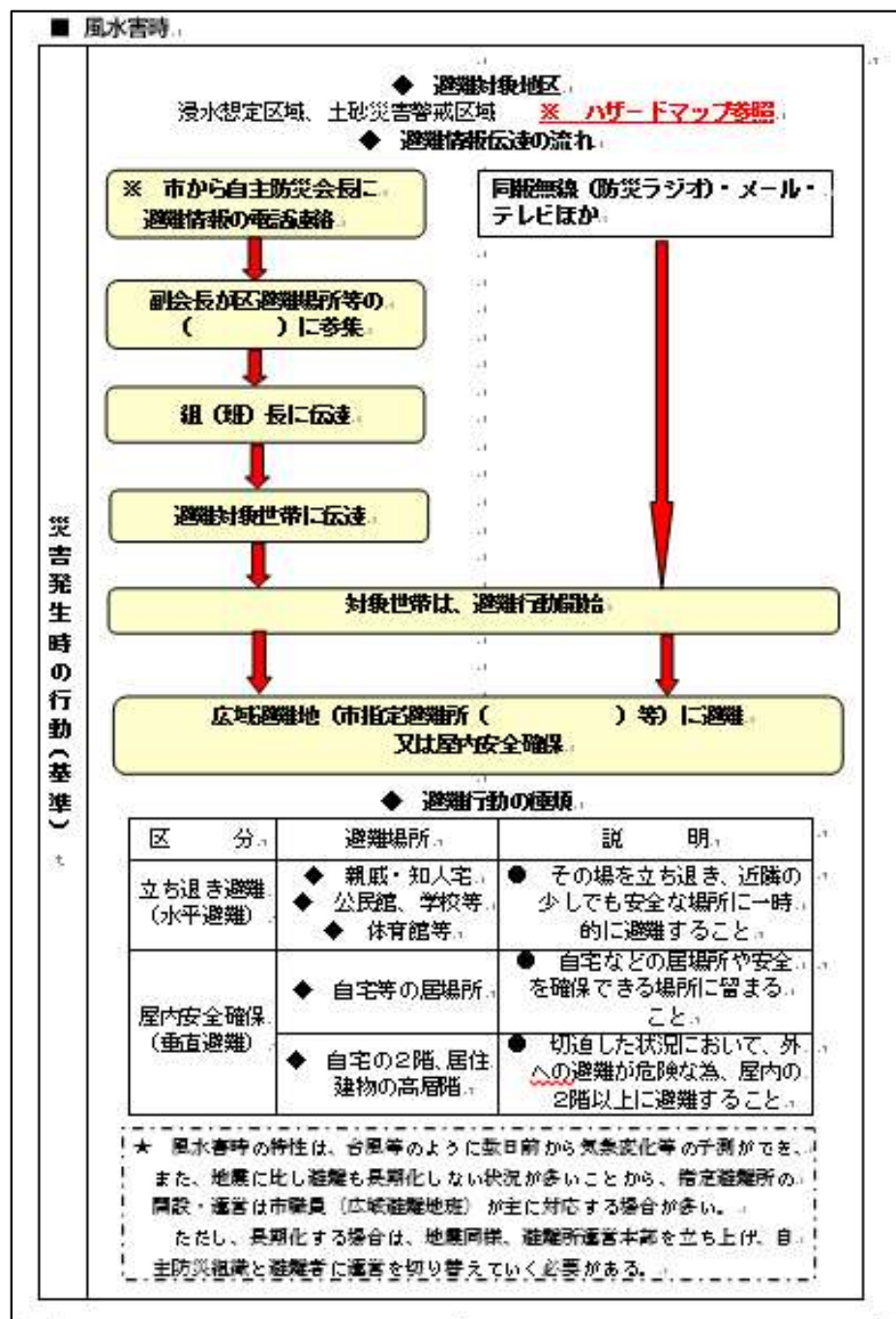


班 名	発災直後～数時間	発災当日～ 3日程度	3日～ 1週間程度	1週間以降
区長、 （副区長）	○自主防災活動の指揮、 ○災害対策本部の運営（会長の補佐・代理）、			
防災会長、 防災委員	○会長の補佐、各班の統括、 ○災害対策本部の設置、 ○避難行動要支援者名簿の用意、 ○世帯台帳・人材台帳の用意、 ○市災害対策本部（広域避難地班）への被害報告、 ○避難所運営本部との連携、			
情報・ 啓発班	○地域の被害状況の把握・伝達、 ○避難所運営本部との連絡調整、 ○市災害対策本部（広域避難地班）からの情報収集、 ○正確な情報提供によるデマ防止、 ○他自主防災組織との連絡調整・連携、			
消火・ 生活班	○出火場所の確認、 ○消火活動人員の割振り、活動指示、 ○消防署への連絡、	○飲み出し及び備蓄食料の調達、 ○飲料水・生活必需品等の調達・配分、		
救出・ 救助班	○要救出者の確認、 ○救出人員の割振り・救出指示、			
衛生・ 救護班	○搬送人員の割振り、 ○重傷者・中等症者の搬送、 ○軽症者の応急処置、	○食中毒・伝染病の予防、 ○し尿処理対策の実施、 ○ゴミの収集処分、		
避難誘導 班	○避難誘導の指揮、 ○安否確認情報の収集、 ○安否不明者の取りまとめ・指示、 ○在宅避難者の把握、			
要配慮者 班	○要配慮者（高齢者、障がい者）の避難誘導、 ○要配慮者の安否確認の指揮、 ○要配慮者の避難行動支援、 ○要配慮者の生活状況の把握、			
安全点 検・防犯 班		○ブレーカー遮断の実施・ガス等の消し忘れ防止、 ○地域内の安全点検、 ○盗難等防犯の防止、		

地区防災計画の定型（フォーマット）一例

12

■ 風水害時の行動等（基準）一例 ※ 既に保有計画はそれを使用、ない場合は作成に活用



自主防災組織の活動は地域の特性に応じて修正して下さい

時間軸	気象情報・避難情報	自主防災組織の活動
-72H.	○台風の進路予報	●ハザードマップによる地域の危険個所の把握
-48H.		●情報収集（テレビ、インターネットなど）
		●早めに災害に備えるよう周知を図る
-24H.	◇大雨注意報、洪水注意報	●連絡体制の確保（町内会・組長・住民）
		・自治会長から組長等へ連絡
-12H.	◇大雨警報、洪水警報	・自主防災組織内の連絡
		・土のう等の準備
		●避難行動要支援者への対応
		・組長を通じた避難行動要支援者への声かけ、避難の意思確認
	【警戒レベル3】	●自主防災本部の役員参集
-6H.	避難準備・高齢者等避難開始	●一時避難所（公民館）の開設準備
		・住民の受け入れ準備
		・市から自治会会長あてに避難情報の入電
		※台風最接近及び避難が必要な状況が夜間・早朝に予想される場合は暗くなる前に避難情報を発表
	★「警戒レベル」の区分内容等の変更が決定している	●近隣（組長等）への呼びかけ
		・近所への声かけや避難
		・近所の行動を確認
		●避難行動要支援者の避難行動支援
		●一時避難所（公民館）の運営
		・避難者の受け入れ、対応
		●指定避難所（小中学校・高校他）の運営
		・広域避難地班（市職員）、施設管理者等と連携し、避難者への対応及び受け入れ等
		・簡易無線等による情報共有
-3H.	◇土砂災害警戒情報	●地域の防水活動
	【警戒レベル4】避難勧告	・消防団を中心に危険な場所や地域の見回り
-2H.		●近隣の安否確認
	【警戒レベル4】	・近所の相互確認
-1H.	避難指示（緊急）	・各家の避難状況の確認
0H.	◇大雨特別警報	●自主防災組織による避難の判断や避難誘導
	【警戒レベル5】	
	災害発生情報	※気象情報、避難情報に関する発表等のタイミングについては、事象によって異なります
	気象情報・避難情報解除後	等）の閉鎖
		・避難行動要支援者の支援
		●町内の巡回
		・被害箇所の確認
		・市への報告
		●災害対応の意見聴取、地区防災計画の修正

小学校

地区防災計画の定型（フォーマット）一例

- 火山災害時の行動等（基準）一例 ※ 既に保有計画はそれを使用、**ない場合は作成に活用**
★ 富士山ハザードマップ改定・新たな避難方針に伴い避難対象地区・対象者数等が変更

中 ■ 富士山火山噴火時 ※ 富士山HM改定に伴い広域避難計画改定中（方針等確定事項のみ）

◆ 避難計画の基準（考え方）

- ◇ 避難の基本的な考え方
「いのちを守る」避難を「優先し」「くらしを守る」避難についても最大限配慮する。
- ◇ 避難の分類

区分	予備的避難	通常避難
状況	原則として噴火発生前の避難 ※ 直ちに危険ではないが、子後を見越しての避難	噴火発生後の避難 ※ 何らかの行動を起こさなければ危険、が及ぶ場合の避難
行動内容	市内指定避難所への避難（立ち退き避難） 市外への避難 帰宅	屋内での避難等の措置（避難所への避難） 指定緊急避難場所への避難（避難所への避難） 市内指定避難所への避難（避難所への避難） 広域避難場所への避難（避難所への避難）
対象者	一般住民（避難行動要支援者） 観光客等	全ての者 一般住民、観光客等、避難行動要支援者は予め避難

◇ 火山現象ごとの避難方針

火山現象	避難方針
大きな噴石	● 発生後の避難は困難なため、噴火前に影響範囲から離脱する。
火砕流・火災サージ	● 発生後の避難は困難なため、噴火前に影響範囲から離脱する。
溶岩流	● 大きな噴石、火砕流・火災サージの影響範囲を除き、噴火後の避難を原則とするが、「3時間以内」で溶岩流が到達するエリアの避難行動要支援者は、噴火前に離脱する。
融雪型火山泥流	● 発生後の避難は困難なため、屋内避難で対応できない場合には影響範囲から予備的避難を実施する。市街地付近で、流速の衰えが想定される区域では、垂直避難を原則とする。
降灰・小さな噴石	● 噴火後の屋内避難を原則とする。
降灰後土石流	● 一般的な土石流災害と同様に対応する。

◆ 避難経路エリア

エリア区分	説明	避難指示タイミング（溶岩流等）	
		噴火前	噴火後
第1次避難対象エリア	想定火口範囲	レベル3（一般住民・避難行動要支援者とも）	—
第2次避難対象エリア	火砕流等、大きな噴石、融雪型火山泥流（一部）	レベル4（一般住民・避難行動要支援者とも）	—
第3次避難対象エリア	溶岩流（3時間以内）到達範囲	レベル4（避難行動要支援者）	噴火直後に必要な範囲（一般住民）
第4次避難対象エリア	溶岩流（3時間～24時間）到達範囲	—	—
第5次避難対象エリア	溶岩流（24時間～7日間）到達範囲	—	—
第6次避難対象エリア	溶岩流（7日間～最大で37日間）到達範囲	—	噴火直後、溶岩流、流下方向を確認し、必要な範囲で避難を開始

▶ 避難の考え方について

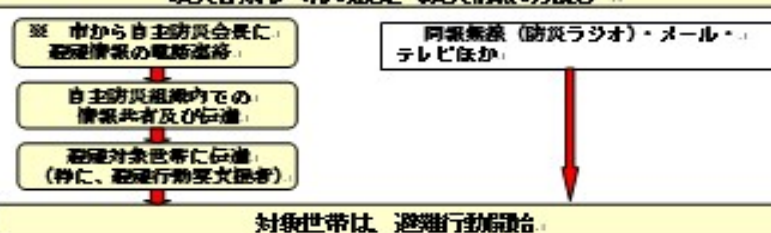
△ 火山災害の不確実性を考慮すると「避難完了までの時間」に目標時間は存在せず、可能な限り速やかに避難完了する方法によることが重要であり、自家用車等による自発的な避難と徒歩による避難方法を状況に応じて選択する。

△ 方法の特性

	メリット	デメリット
自動車	- 多くの家族を乗出せる。 - 速方への移動が可能。 - 短時間であれば車中泊も可能。 - 要支援者もスムーズに移動可。	- 深刻な渋滞の発生。 - 動けなくなった車が道路を塞ぎ道路機能喪失。 - 広大な駐車スペース必要。
徒歩	- 渋滞発生を回避。 - 避難路の選択状況の増加。	- 搬出可能な荷物が制限。 - 長距離の移動は不向き。 - 要支援者には、対応不可。

◆ 市民等への情報伝達・広報手段（突発的な噴火を除く）

噴火警戒レベルの設定（噴火情報の発表）



【自主防災会長の頼もしい行動】

- 自家用車で避難（自己避難）不可能な世帯（人員）を把握
- ※ 特に、避難行動要支援者
- 自家用車で避難（自己避難）不可能な世帯（人員）に対する集合場所（区集合場所等）への移動を指示（可能であれば、支援・協力）
- 行政が避難のため準備する車両出発位置の明確化
- 自家用車で避難（自己避難）不可能な世帯（人員）数・状況等を市及び警察・消防等へ通報
- 自己避難等

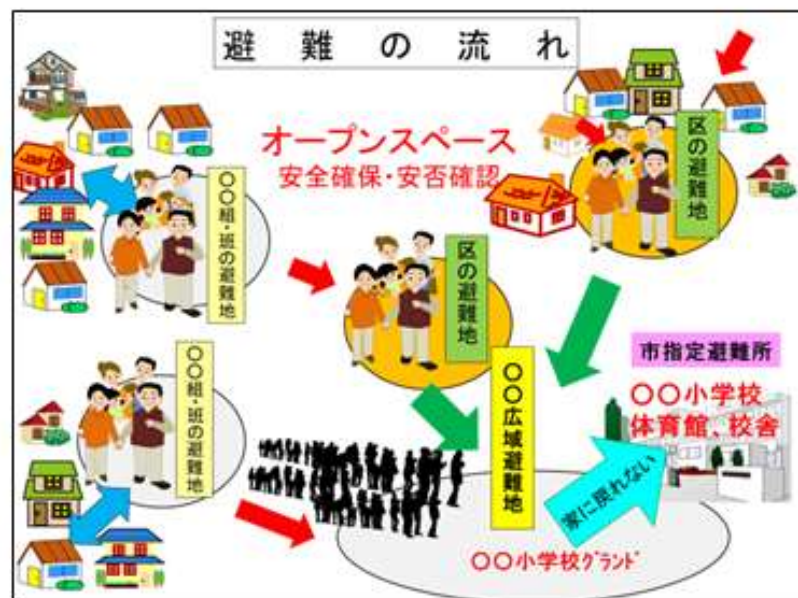
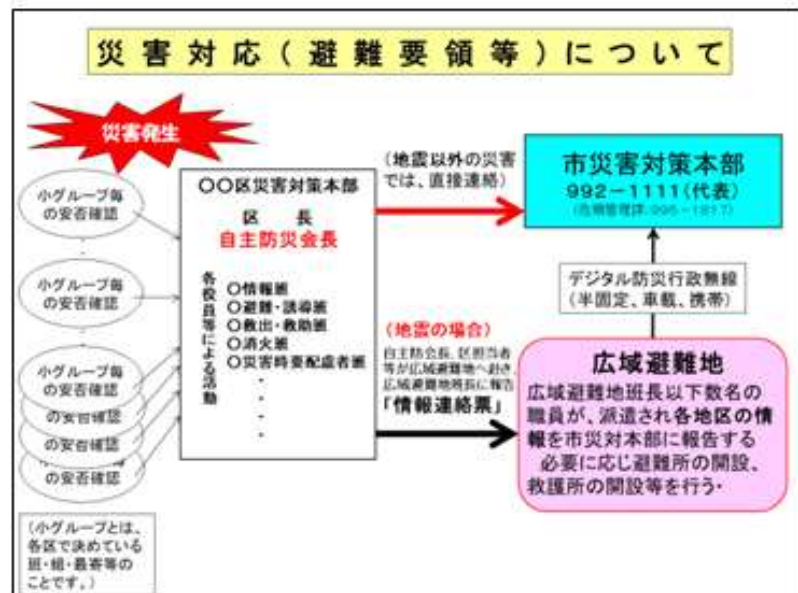
今年7/20の図上演習
でこの部分を作成

地区防災計画の定型（フォーマット）一例

14

避難要領（流れ）イメージ

【認識すべき事項(流れ)】

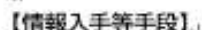


知っておくべき防災拠点等

【救護所・避難所・市内病院等一覧】

区分	施設名	連絡先(住所・電話番号・FAX 番号)
救護所	①南小学校	伊豆島田 806-5 ☎995-1373 ☎995-1374
	②梶野高校	佐野 900-1 ☎992-1125 ☎992-1016
	③福祉保健会館 (医療救護対策調整所)	石脇 524-1 ☎992-5711 ☎992-5733
	④須山地区研修センター	須山 587-4 ☎998-0955 ☎998-0955
一般避難所 ◆広域避難地に併設する指定避難所(1番目に開設) 11カ所 ※その他、16カ所	①西小学校	佐野 1143 ☎992-0138 ☎992-3242
	②南小学校	伊豆島田 806-5 ☎995-1373 ☎995-1374
	③梶野高校	佐野 900-1 ☎992-1125 ☎992-1016
	④東小学校	茶畑 399 ☎992-0049 ☎992-1300
	⑤向田小学校	茶畑 1133 ☎993-7050 ☎993-7051
	⑥深良小学校	深良 655 ☎992-0242 ☎992-2433
	⑦生涯学習センター	深良 655 ☎992-0242 ☎992-2433
	⑧富岡第一小学校	御宿 600 ☎997-0343 ☎997-1793
	⑨下和田区・呼子区 児童屋内体育施設	下和田 890 ☎997-1022 ☎997-1092
	⑩千福が丘小学校	千福が丘 4-12-1 ☎993-8222 ☎993-8223
	⑪須山小学校	須山 165 ☎998-0021 ☎998-0128
福祉避難所 13カ所	①富岳一ノ瀬荘	茶畑 1707-3 ☎993-8033 ☎993-8035
	②茶畑ヒルズ	茶畑 1428-1 ☎995-0011 ☎995-0021
	③あいの郷	深良 2929 ☎965-4123 ☎965-4133
	④みしゅくケアセンター わか葉	御宿 14775 ☎997-8181 ☎997-8302
	⑤富岳ダイヤモンド ライフ すその	須山 2949 ☎965-1122
	⑥さくらんぼ	深良 2373-1 ☎919-2096 ☎919-2096
	⑦みどり作業所	石脇 208-1 ☎993-7560 ☎993-1127
	⑧(乳)西保育園	佐野 1154 ☎992-0216 ☎992-0216
	⑨(乳)東保育園	茶畑 504-1 ☎992-0279 ☎992-0279
	⑩(乳)深良保育園	深良 1918 ☎992-2434 ☎992-2434
	⑪(乳)富岡保育園	上ヶ田 174-3 ☎997-2500 ☎997-2500
	⑫(乳)須山幼稚園	須山 1588-1 ☎998-0096 ☎998-0854
病院	住所・電話番号	
	①梶野赤十字病院	佐野 713 ☎992-0008
	診療科目	
	②医療法人社団榮紀会 東名梶野病院	御宿 1472 ☎997-0200

※ あらゆる手段を活用



情報入手等手段			
区 分	手段(媒体等)	備 考 等	
行政等からの 情報入手	同報無線(防災行政無線)		○
	電話・FAX 『裾野市役所危機管理課』連絡先 TEL:055(995)1817 FAX:055(992)4447		○
	メール	緊急速報メール(エリアメール)	※避難等必要エリア 内に所在
		マモメール	※登録者
	SNS	LINE	※登録者(市 LINE)
		フェイスブック、ツイッター等	※登録者
	市ホームページ(ウェブサイト)		○
	Lアラート		地上デジタル放送
広報車・人員の巡回・訪問による通報等		○	
マスメディア等 からの情報 入手	テレビ		○
	ラジオ		○
	新 聞		○
	コミュニティFM・ボイスキュー等		○

※ 今回は、災害発生時の初動が焦点

「地区防災計画」内容等の充実⁴⁾

◎ 今回作成した計画は、「災害発生時の主要な行動」、特に初動に関する準拠等に焦点を当てて作成したが、今後内容の具体化と段階区分毎の作成等、計画的に逐次内容を充実していく着意が必要である。

段階区分		内 容 等	備 考
① 平常時		☐ 防災訓練、避難訓練(情報収集・共有・伝達、訓練を含む)。 ☐ 活動体制の整備。 ☐ 連絡体制の整備。 ☐ 防災マップの作成。 ☐ 避難路の確認。 ☐ 指定緊急避難場所、指定避難所等の確認。 ☐ 要配慮者の保護等地域で大切な事の整理。 ☐ 食糧等の備蓄。 ☐ 救助技術の取得。 ☐ 防災教育等の普及啓発活動。	※ 消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携。
② 災害警戒時		☐ 情報収集・共有・伝達。 ☐ 連絡体制の整備。 ☐ 状況把握(見回り・住民の所在確認等)。 ☐ 防災気象情報の確認。 ☐ 避難判断、避難行動等。	
災害発生時	③ 応急対策時 <u>※今回作成した部位だが、今後更に内容を充実</u>	☐ 身の安全の確保。 ☐ 出火防止、初期消火。 ☐ 住民間の助け合い。 ☐ 救出及び救助。 ☐ 率先避難、避難誘導、避難の支援。 ☐ 情報収集・共有・伝達。 ☐ 物資の仕分け・炊き出し。 ☐ 避難所運営、在宅避難者への支援。	
	④ 復旧・復興時	☐ 被災者に対する地域コミュニティ全体での支援。 ☐ 行政関係者、学識経験者等が連携し、地域の理解を得て速やかな復旧・復興活動を促進。	

地区防災計画の作成奨励（令和4年度参考）

16

職員の担当区分

区（自主防会）名	担当職員	区（自主防会）名	担当職員
久根、公文名1～5、三菱、中丸上・中・下、天理町、滝頭、本茶	芹澤課長	町震1・2、舞台団地、南堀、和市、遠道原、切久保、上原、上原団地、原、上須、深良新田、岩波、	勝又主査
千福、御宿平山・上谷・新田・坂上・入谷、上城、中村、下条、中里、田場沢、森脇団地、上ヶ田	永田主幹	金沢、今里、下和田、呼子、矢崎、トヨタ、御宿台、千福が丘、千福南、今里上	海野主査
石脇、佐野上宿・本宿・若狭、佐野二、大畑、上町、緑町、元町	飯塚主幹	道上、峰下・市の瀬、鈴原、茶畑団地、青葉台、和泉、富士見台、麦塚、新道、東町、本通り、日の出元町、本村上中・下	栗原主査
須山1～4、須山6、十里木	山本調整監	桃園、富沢、南町、二ツ屋一、二ツ屋二、堰原、伊豆島田、水窪	安田主事

作成予定

市職員（危機管理、社会福祉、広域避難地班）
区長、自主防会長、民生委員、社協職員

	4/28 (水)	5/10 (火)	5/13 (金)	5/28 (土)	6/16 (木)	7/9 (土)	7月中 (未定)	8/2 (火)	9/4 (日)	10～12月	11/18 (金)	2月 下旬		
主要事業	◆連合総会 (生涯学習 センター) ◇役員選出	◆第1 回役員 会	◆第1回 勉強会 「土砂災害」	◆防災交流 会 ※ <u>勢ぞろい 顔合わせ。</u>	◆第2回 勉強会 「地震・富 士山火山」	◆役員 訓練会	◆第2 回役員 会	◆地域防 災訓練 説明会	◆総合防災 訓練 ※自主防活 動研究会	◆地域防 災訓練実 施期間	◆防災の つどい	◆第3回 役員会		
会全般目的	◇役員選出、 事業報告、事 業計画承認、 各種申請手 続き等 ◇ <u>県防災アプリ</u>	◇各事 業実施 内容等 協議等	◇土砂災 害・浸水害 知識付与 ◇土砂災 害防災訓 練説明	◇ <u>要避難者 リスト配布・ 調整</u> ◇避難所開 設・運営打ち 合わせ	◇地震・ 富士山 噴火災 害等 ◇ <u>中間 報告説明</u>	◇HUG ◇ <u>防災 アプリ</u> 等 普及 ◇避難 所調整	◇各種 行事等 の説明 ・意見 交換等	◇提出書 類・貸出 資機材、 派遣人員 調整等	◇各自主 防災会毎の訓 練実施 ◇モデル地 区訓練	◇各自主 防ごとの計 画による。	◇防災講 演、活動 報告 ◇防災関 係表彰、 意見発表	◇今年度 事業振り 返り ◇次年度 事業計画 案		
施策狙い等	■「共助」機能強化 施策の趣旨・要領 提示(全般説明) ■自主防会長に対 する周知・賛同受	■計画必要性、 骨子の提示 ■計画作成手 順等の説明及 び認識の徹底	■計画の作成及び修正・見直し ※ 区(自主防)内の作業・審議 ※ 職員との個別調整等		■作成 状況の 確認 (把握)		■概成 に向けた呼び 掛け・ 支援等		■計画内容の充実		■自主裁 量によ る内容 の確認		■紹介・評議 等による各自 主防組織の 意識向上	
実施要領等	□趣旨及び概要の 説明 □昨年成果説明	□計画(骨子) 定型及び作成 業務予定等の 説明 □地区別担当 職員の紹介 □質疑応答	◎ 職員による担当自主防毎の ■計画作成状況の確認 ■計画作成の個別調整・支援 (助言)		□職員 による 計画作 成の進 捗状況 確認 ※個別 調整等		□安否訓 練の実動 場面を活 用した内 容の検証 □研究会 による補 備修正		□概成及び 修正・見直 した計画 を使用して 内容検証 ※要すれば 修正		□職員による 個別調整・ 確認 (助言等)		次年度以降への継続(施策推進)	

地域防災計画へ反映

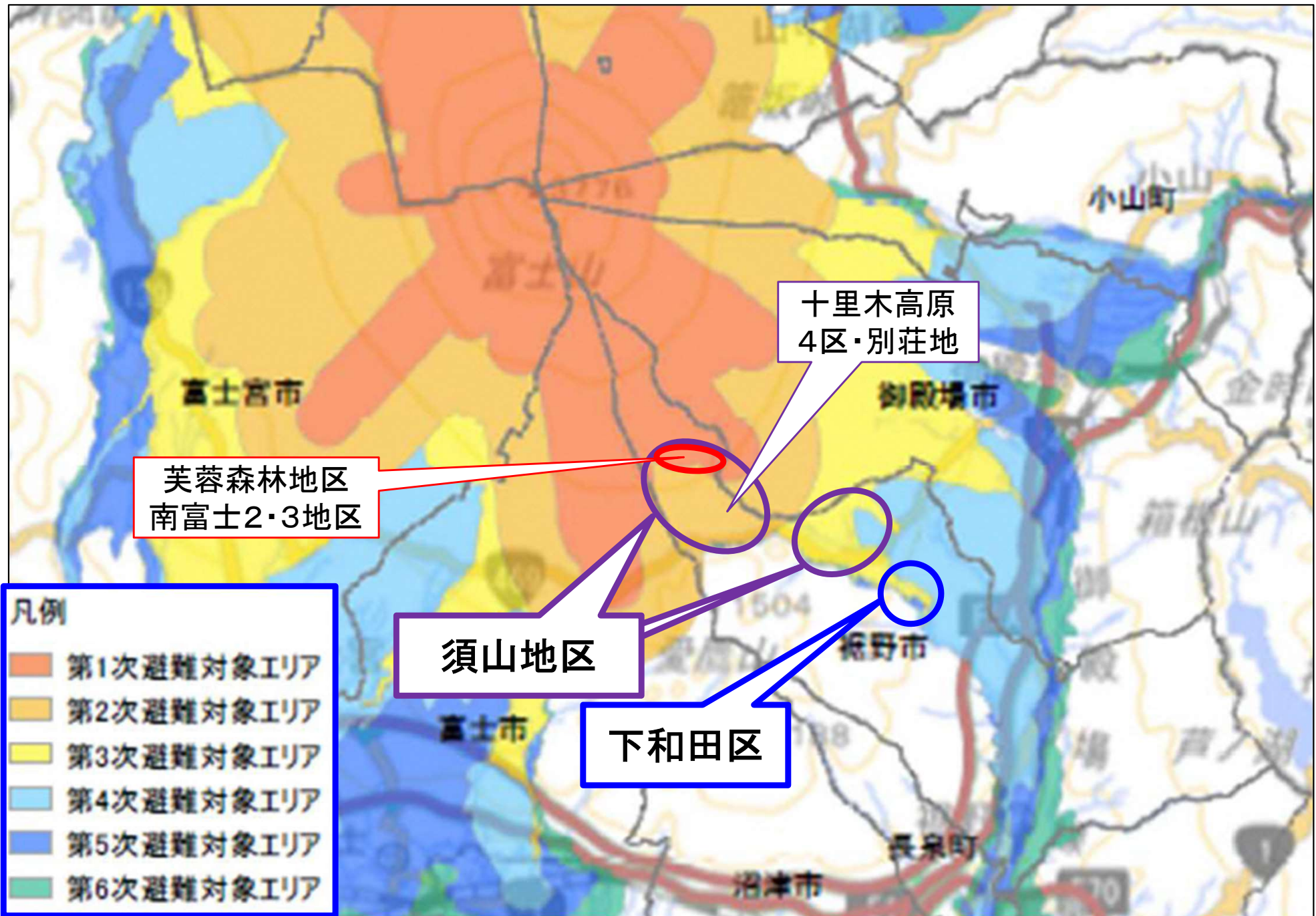
地区防災計画の作成奨励（令和6年度作成担任）

16

地区	区（自主防）	担任
東	久根	
東	公文名2	
東	公文名3	
東	公文名5	
東	稲荷アルミ	
東	中丸中	
東	中丸下	
東	天理町	
東	峰下市の瀬	
東	茶畑団地	
東	和泉	
東	新道	
東	本通り	
東	日の出元町	
東	本村上中	
東	本村下	

地区	区（自主防）	担任
西	石脇	
西	佐野上宿	
西	元町	
西	桃園	
西	富沢	
西	伊豆島田	
富岡	千福	
富岡	御宿上谷	
富岡	下条	
富岡	田場沢	
富岡	金沢	
富岡	今里上	
富岡	矢崎	
富岡	御宿台	
深良	舞台団地	
須山	須山5区（十里木別荘地）	

新たな避難対象エリア区分



土砂災害警戒区域該当の地域（区）

7

【西地区】

1	大畑区 急傾斜地 土石流
2	桃園区 急傾斜地 土石流
3	富沢区 急傾斜地 土石流

【東地区】

4	久根区 土石流
5	公文名三区 急傾斜地
6	公文名四区 急傾斜地 土石流
7	公文名五区 急傾斜地
8	滝頭区 急傾斜地
9	道上区 急傾斜地
10	峰下市の瀬区 急傾斜地 土石流
11	鈴原区 急傾斜地
12	茶畑団地 急傾斜地
13	青葉台 急傾斜地 土石流

【深良地区】

14	町震一区 土石流
15	南堀区 急傾斜地 土石流
16	上原区 急傾斜地 土石流
17	原区 急傾斜地 土石流
18	上須区 急傾斜地 土石流
19	岩波区 急傾斜地

【富岡地区】

20	千福区 急傾斜地 土石流
21	御宿新田区 急傾斜地
22	上城区 急傾斜地 土石流
23	中村区 急傾斜地
24	田場沢区 急傾斜地 土石流
25	上ヶ田区 急傾斜地
26	金沢区 急傾斜地
27	今里区 急傾斜地 土石流
28	下和田区 急傾斜地 土石流
29	呼子区 急傾斜地
30	千福が丘 急傾斜地

【須山地区】

31	須山二区 急傾斜地 土石流
32	須山三区 急傾斜地
33	別荘地内 急傾斜地

浸水想定区域該当の地域（区）

【西地区】

1	石脇区
2	佐野上宿
3	佐野本宿
4	佐野若狭
5	佐野二区
6	大畑区
7	上町区
8	緑町区
9	元町区
10	桃園区
11	富沢区
12	南町区
13	ニッ屋一区
14	ニッ屋二区
15	堰原区
16	伊豆島田区
17	水窪区

(17ㇿ区)

【東地区】

18	久根区
19	公文名一区
20	公文名二区
21	公文名三区
22	公文名四区
23	稲荷アルミ区
24	中丸上区
25	中丸下区
26	滝頭区
27	本茶区
28	道上区
29	峰下市の瀬区
30	和泉区
31	富士見台区
32	麦塚区
33	新道区
34	東町区
35	本通り区
36	日の出元町区
37	本村上中区

(20ㇿ区)

【深良地区】

38	町震二区
39	舞台団地区
40	遠藤原区
41	上原区
42	深良新田区
43	岩波区

(6ㇿ区)

【富岡地区】

44	千福区
45	御宿平山区
46	御宿上谷区
47	御宿新田区

(4ㇿ区)

【須山地区】

該当なし。

★ 47ㇿ区